



創立10周年記念

# 森町体育協会記念誌



**10** 森町体育協会創立10周年記念事業  
*th anniversary*



# 目次

## CONTENTS



● 発刊のこたば	1	バスケットボール協会	50
高山 健太郎 (森町体育協会会長)		ベタング協会	54
● 祝辞	2	バドミントン協会	58
中江 昭彦 (渡島管内体育協会連絡協議会会長)		野球協会	60
梶谷 恵造 (森町長)		森町パークゴルフ協会	64
野村 洋 (森町議会議長)		さわらパークゴルフ協会	66
香田 隆 (森町教育委員会教育長)		スキー協会	70
● 歴代会長名簿	6	● 森町スポーツ少年団 (11団体)	73
● 森町体育協会組織図	7	剣道スポーツ少年団	74
● 森町体育協会関係者名簿	8	柔道スポーツ少年団	74
● 森町体育協会10年のあゆみ	10	野球スポーツ少年団 (森クラブ)	75
● あの頃を振り返る	18	サッカースポーツ少年団	75
● 加盟団体 (17団体)	19	バドミントンスポーツ少年団	76
剣道連盟	20	バスケットボールスポーツ少年団	76
バレーボール協会	24	尾白内野球スポーツ少年団 (尾白内クラブ)	77
水泳協会	28	鷺ノ木サッカースポーツ少年団	77
陸上競技協会	30	森・尾白内バレーボールスポーツ少年団	78
ソフトテニス協会	32	砂原野球スポーツ少年団	78
ソフトボール協会	34	砂原サッカースポーツ少年団	79
柔道協会	38	● 森町体育協会規約	80
サッカー協会	42	● 体育関係施設一覧	86
ミニバレー協会	44	● 編集後記	87
ゲートボール協会	46		





「駒ヶ岳」



「上大滝」

絵：齊藤公生  
(水泳協会員)







森町体育協会  
会長 高山 健太郎

森町体育協会が今年、創立10周年の記念すべき年を皆様と共に迎えることができ、大変嬉しく思います。

そしてここに記念誌を発刊できることに對し、当協会の発展を支えてくださった方々に、心から感謝とお礼を申し上げます。

平成の大合併に伴い、旧森町と旧砂原町が10年前合併し、新森町が誕生しました。お互いの体育協会も合併を視野に準備委員会を立ち上げ、数回の会議を重ね、そして合併ではなく新たに体育協会を立ち上げるという道を選び、森町の合併と時を同じくして、新森町体育協会が誕生しました。

当時森町体育協会の坂元会長、砂原体育協会の岡田会長をはじめとする、設立準備委員会の皆さんが苦勞を乗り越え、新生森町体育協会を立ち上げたことに對しまして、心から敬意を表するものであります。

その後、各単位協会の統一も進み、また町民大運動会、冬季スポーツフェスティバル、町民玉入れ大会の3大事業を柱に活動を進めてまいりました。

冬季スポーツフェスティバル、町民玉入れ大会は、森町教対協との共催事業となり、町民に深く定着した事業に成長したと自負しております。

しかしながら、昭和36年の森町大火の後、町の復興を願い始めた町民大運動会が、少子高齢化の波に勝てず、50回目を最後にその幕を閉じざるをえなかったことは、この10年で当協会にとって1番大きく、そして残念な出来事ではなかったでしょうか。

それでも、伝統ある「オニウシ周回マラソン大会」を、当協会主催で今年復活させることができたことや、管内有数の団員数を誇る、森町スポーツ少年団を組織に組み入れることができたことは、一筋の光だと感じております。

いずれもまだまだ小さい一歩にすぎませんが、これらを糧に、当協会の発展に繋げていきたいと考えております。

最後になりますが、日頃より当協会の活動に對しまして、深いご理解とご協力をいただいております森町、森町教育委員会をはじめ、町内外の関係各位、並びに各単協の皆様は心からのお礼を申し上げると共に、今後ご指導ご協力をお願いし、発刊のことばとさせていただきます。

## 創立10周年記念

# 森町体育協会 記念誌



祝

辞



渡島管内体育協会連絡協議会  
会長 中江 昭彦

森町体育協会が創立10周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

平成17年の森町と砂原町の合併に伴い、森町体育協会（昭和33年創立）と砂原町体育協会（昭和38年創立）が1つとなり、町民の健康や体力づくりをはじめ、地域の特性を活かしたスポーツ振興の推進・充実に努められるなど、町民の体力向上や健康増進、生涯スポーツの啓発・普及にご尽力されておられますことに対し、深く敬意を表します。

現在、スポーツは健康な生活を営む上で必要不可欠なものと認識され、今後も社会のめまぐるしい変化が予想されますが、健康を維持するために、ますます重要性が高まるものと考えております。

このようなことから、人々がスポーツをする目的や内容も多様化することが予想される中で、人々のライフスタイルに合わせてスポーツを楽しむために、常日頃から体を動かす習慣やスポーツを生活の一部にすることを促すことが重要です。

貴体育協会におかれましては、諸先輩が残されました輝かしい歴史を糧に連帯と協調性を持ち、町民一人ひとりが生涯にわたって健康で活力のある生活を営むことができるように、地域の各スポーツ協会や団体を束ねて、スポーツ活動の活性化と生涯スポーツの振興を図ることに期待しております。

終わりになりますが、貴体育協会におかれましては、創立10周年を契機に町民はもとより、渡島管内や道内の生涯スポーツの振興のためにますます発展されますことをご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



祝

辞



森町長 梶谷 恵造

森町体育協会 創立10周年を心からお慶び申し上げます。

平成17年平成の大合併において、旧森町と旧砂原町が北海道第1号の対等合併としてのスタートに併せて、旧両町において永きにわたり振興されてきたスポーツの灯を、町の一体化推進をも深慮していち早く取り組みいただきました事に感謝申し上げますと共に、歴代の役員並びに会員の皆様方には、重ねて深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、スポーツにより少年団の健全なる育成を始め、春夏秋冬、四季を通じて健康で明るい町民を育む町づくりは、ご長寿時代を迎えた今こそ重要性を増していると思います。

さらに、日々の仕事をエネルギーに組み込み、バランスの取れた快適な日々を過ごすには、心身のリフレッシュを目的にスポーツによる健康な汗をかくことや、健康志向の方などの為には適度なストレッチを含めた運動が必要です。すでに、パークゴルフやベタンクウォーキング等、健康目的として軽スポーツを楽しむたくさんの町民の方々をお見受けします。

また、野球やサッカーを始めバレーやバスケットボール等プロリーグも多種多様に盛んに行われ、体操やスケート スキーの世界選手権においても、頂点で日本代表のスポーツマンが活躍しております。とりわけ、ラグビーワールドカップの活躍には日本中の人々を興奮に巻き込み、感動させてくれました。近年では世界を魅了するスター選手も続々と登場して「いつか森町からも・・・」と期待をしている一人です。

貴協会の熱心な指導によるご尽力のおかげで、剣道や柔道などでは毎年のように全道大会へ進み、さらに全国大会へと着々とその実力に磨きをかけており、他の少年団員も実力を増し、その活躍を楽しみにしているところです。今後においても、児童生徒に対するご指導、並びに、町民皆様への健康支援等よろしく願いいたします。

結びに、森町体育協会が高山会長の下連携してますますご発展され、各単協と会員皆様方のご活躍とご健勝を併せてご祈念申し上げお祝いの挨拶と致します。

## 創立10周年記念

# 森町体育協会 記念誌



祝

辞



森町議会  
議長 野村 洋

この度、森町体育協会が創立10周年を迎えられたことに、心からお祝い申し上げさせて頂きたいと思います。貴協会に於かれましては、昭和33年に創立され平成17年の合併時に新しい形で再出発されました。以来、関係各位の深いご理解のもと、いろいろな困難を克服され、今日まで着実にスポーツの振興と発展に寄与されてこられました。この間、協会発展のためご尽力された関係者の皆様に感謝と敬意を深く表する次第です。

今、少子高齢化で人口減少が顕著にどの町でも起きておりますが、このような中で、変貌に適切に対応して如何に生涯を健やかに過ごしていただくか「健康で明るい町づくり」が大事なことと受け止めております。

町民が幸せで健康であってこそ、町に活力がみなぎり、強いては森町のすばらしい発展につながると思います。

町民「皆生涯スポーツ」を目指し、大いに町民に啓発されて、今後も貴協会のご活躍が町発展のため成果を上げられるようお願いする次第です。

終わりに、貴協会の高山会長を筆頭に会員の皆様のご健勝を、そしてまた貴協会が町民に愛され、今後も益々発展されますことをご祈念し、お祝いの言葉と致します。

## 創立10周年記念

# 森町体育協会 記念誌



祝

辞



森町教育委員会  
教育長 香田 隆

森町体育協会創立10周年、誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。合わせまして、お忙しいなか記念誌の発行のためにご尽力をいただきました役員の皆様には衷心より感謝を申し上げます。

平成17年4月に、旧森町と旧砂原町が合併し、それぞれの体育協会が心一つにし、様々な苦勞があったことと思いますが、新しい体育協会として森町の体育・スポーツ活動の推進に大きな貢献をされてこられましたことに、心から感謝と敬意を表するものです。

合併の後、新しい森町は平成20年に、森町総合開発振興計画を策定し、「みんなで創ろう海と緑の理想郷 森町 ～こころふれあう はつらつとした爽やかなまち～」を基本理念としてまちづくりを進めてまいりました。

体育協会の皆様には、各種のスポーツ大会の開催をはじめ、冬季スポーツフェスティバルの開催など町民の皆様の交流を広げるために、様々な取組を進めていただき心から感謝申し上げます。

体育・スポーツ活動の振興は、町民の皆様の一体感を促進し、地域の活力を引き出してくれるものだと思います。また、心の豊かさや明日への希望、更には生きる喜びを私たちに与えてくれるものであり、潤いのあるまちづくりにもつながるものと考えております。

スポーツ活動は、子ども達や高齢者の方を含めたすべての人たちが参加できる活動として、そのすそ野は広く多様であり、これからの時代の変化を考えれば、多くの可能性を秘めた豊かな活動が期待されます。

町民憲章にあります「健康で希望に満ちた あたかなまちをつくります」を具現化し、それぞれの分野でスポーツ活動の大きな花を咲かせていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆様の今後のご健勝とご活躍、そして森町体育協会のますますのご発展を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



## 歴代会長名簿

### 旧森町体育協会

初代会長	阿部 恵三男	昭和33年2月～昭和58年4月
二代	落合 義雄	昭和58年4月～昭和62年6月
三代	森川 英治	昭和62年6月～平成17年3月

### 旧砂原町体育協会

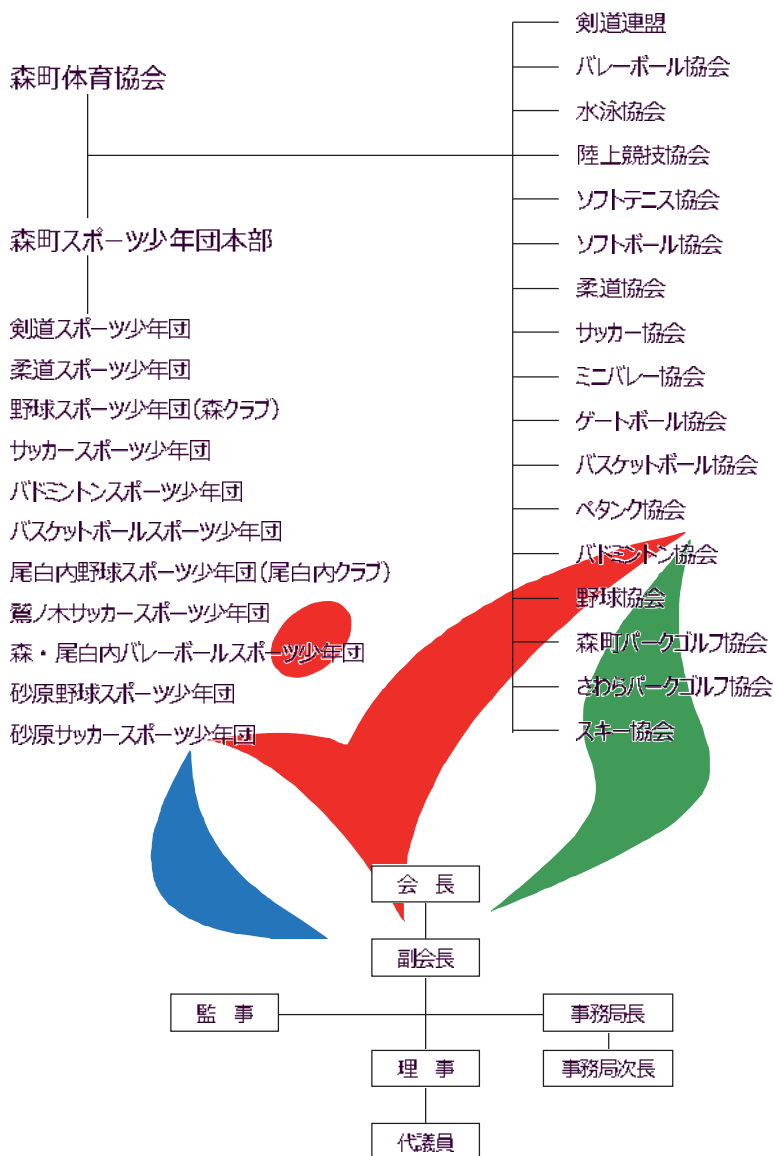
初代会長	新谷 一男	昭和38年7月8日～昭和50年3月31日
二代	岩本 誠一	昭和50年4月1日～昭和54年3月31日
三代	服部 勝見	昭和54年4月1日～平成7年3月31日
四代	池田 信司	平成7年4月1日～平成11年3月31日
五代	岡田 富雄	平成11年4月1日～平成17年3月31日

### 新森町体育協会（町村合併後）

初代会長	坂本 元	平成17年7月9日～平成23年6月17日
二代	小笠原 喬	平成23年6月18日～平成27年5月28日
三代	高山 健太郎	平成27年5月29日～現在

平成17年4月1日に新森町が誕生し、旧両町の体育協会は解散となり、旧森町体育協会会長である坂本 元氏を設立委員長、旧砂原町体育協会会長である岡田 富雄氏を副設立委員長とし、平成17年7月9日に新森町体育協会が設立された。

# 森町体育協会組織図





## 森町体育協会関係者名簿

森町体育協会役員	会 長	副 会 長	副 会 長
	高 山 健太郎	木 野 皇	山 口 誠

協 会 名	会 長	副 会 長	副 会 長
剣 道 連 盟	山 口 誠	外 山 正 幸	長 瀬 昇
バレーボール協会	蛭 沢 彰 則	小 林 咲 子	
水 泳 協 会	鈴 木 真 一	斉 藤 公 生	
陸 上 競 技 協 会	熊 倉 英 高		
ソフトテニス協会	森 田 幸 子		
ソフトボール協会	中 澤 克 宣	清 水 成 信	平 田 晶 彦
柔 道 協 会	綾 栄 治	坂 本 元	
サッカー協会	畠 山 喜 式	橋 達 瑞 希	清 水 寛 行
ミニバレー協会	菊 池 一 夫	木 村 希 代 子	矢 部 知 幸
ゲートボール協会	鈴 木 真 一		
バスケットボール協会	柴 田 匡 啓	山 本 勝 雄	
ベタック協会	本 多 堅 勇	菊 池 務	吉 田 光 博
バドミントン協会	阿 部 崇 史	能 戸 光 美	木 村 孝
野 球 協 会	下 山 敬 一	金 谷 孝 己	
森町パークゴルフ協会	山 田 哲 也	佐 藤 昭 二	高 山 優 子
さわらパークゴルフ協会	坂 本 五 十 三	松 瀬 義 信	板 澤 宏
ス キ ー 協 会	藤 嶋 敏 夫		

事務局長	事務局次長	監事	監事
葛西十夢	藤田早苗	岡田浩司	今野雅丈

事務局長	体協理事	体協代議員	体協代議員	会員数
高松潤一	小山内裕介	高松潤一	長瀬敏文	50
藤田早苗	菊地岬	大谷菜々	水口祐太	34
田子信	鈴木真一	海津道治		10
神田秀勝	熊倉英高	神田秀勝	古川和章	3
中田剛	中田剛	畠山美智子	千葉セイ	6
増田徹	増田徹	吉田幸二	藤脇良弥	87
佐山寿一	櫻庭邦行	佐山寿一	田中太治	31
鈴木実	畠山喜式	橋達瑞希	清水寛行	20
海谷広美	佐藤純也	管公一	佐々木貴弘	50
鈴木真一	房田茂美			7
葛西十夢	今野雅丈	高田信	石黒雄士	18
吉田好克	菊池務 (事務局次長代理)	本多堅勇	吉田光博	35
中澤雅彦	中澤雅彦	山口繁夫	阿部崇史	13
佐々木陽市郎	高橋宏幸	川村勝幸	寺澤英樹	3 千一ム
内山寛	山崎清光	山田哲也	高山優子	50
森高博志				60
山上誠	澤田勝則	山上誠	里口伸一	14

# 森町体育協会10年のあゆみ

## 平成17年度

■第20回冬季トリノ五輪女子フィギュアスケートで 荒川 静香が日本人初の金メダル獲得

■野球WB Cで王ジャパンが初代王者に

□森町体育協会と砂原町体育協会が合併し森町体育協会が創立

会長 坂本 元、副会長 斉藤 公生、副会長 岡田 富雄、副会長 小笠原 喬、

事務局長 高山 健太郎、事務局次長 佐川 哲彦、事務局次長 高階 誠一郎を役員とした

□森町民大運動会を開催（優勝 森川町、準優勝 濁川、第3位 石倉中部）

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成18年度

■プロ野球日本ハムファイターズ44年ぶりに日本一

□森町民大運動会を開催（優勝 森川町、準優勝 常盤町、第3位 駒ヶ岳）…総開催数45回

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成19年度

■プロ野球中日ドラゴンズ53年ぶり2度目の日本一

□森町民大運動会を開催（優勝 森川町、準優勝 駒ヶ岳、第3位 常盤町）

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成20年度

■第29回夏季北京五輪で水泳男子 北島 康介 連覇

■野球WB Cで原監督率いるサムライジャパンが連覇

□森町民大運動会を開催（優勝 森川町、準優勝 富士見・鷲ノ木、第3位 濁川）

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成21年度

■世界陸上でウサイン・ボルトが世界新を含む3冠達成

□森町民大運動会を開催（優勝 駒ヶ岳、準優勝 森川町、第3位 御幸・清澄）

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成22年度

■イチロー選手がM B L 史上初10年連続200本安打達成

■東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）発生

□森町民大運動会を開催（優勝 駒ヶ岳、準優勝 森川町、第3位 常盤町）

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成23年度

### ■ F I F A女子ワールドカップサッカーでなでしこジャパンが世界一に

□役員改正により会長 小笠原 喬(新)、副会長 木野 皇(新)、副会長 新谷 春勝(新)  
事務局長 高山 健太郎(継)、事務局次長 高橋 宏幸(新)とした

□森町民大運動会を開催(総開催数50回)

(優勝 森川町、準優勝 富士見・鷺ノ木、第3位 御幸・清澄)

□町民玉入れ大会を開催(小学生玉入れ大会と合同開催し、町民体育館で実施となる)

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成24年度

### ■ 第30回夏季ロンドン五輪で日本史上最多のメダル38個獲得

□全町内会に実施の是非を問うアンケート調査をした結果、森町民大運動会の中止を決定

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成25年度

### ■ プロ野球楽天イーグルスが日本一。田中 将大がシーズン負けなしの24連勝達成

### ■ 第22回冬季ソチ五輪男子フィギュアスケートで 羽生 結弦が金メダル獲得

□役員改正により会長 小笠原 喬(継)、副会長 木野 皇(継)、副会長 坂本 五十三(新)、  
事務局長 高山 健太郎(継)事務局次長 高橋 宏幸(継)とした

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成26年度

### ■ 全米オープンテニスで日本人選手として 錦織 圭 が初の準優勝達成

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」を開催

## 平成27年度

### ■ F I F A女子ワールドカップサッカーでなでしこジャパンが準優勝

### ■ 北海道新幹線開業(平成28年3月26日)

□役員改正により会長 高山 健太郎(新)、副会長 木野 皇(継)、副会長 山口 誠(新)、  
事務局長 葛西 十夢(新)、事務局次長 藤田 早苗(新)となる

□オニウシ公園周回マラソン開催

□森町体育協会創立10周年記念特別助成金を配付(17単協)

□森町文化講演会、ワイナйнаと走ろう(講師:エリック・ワイナйна氏)

□町民玉入れ大会を開催

□冬季スポーツフェスティバル「勝ち抜きチューブ滑走大会」開催予定

□森町体育協会創立10周年記念誌発行



# 町民大運動会



森町民大運動会の生い立ちは、昭和36年10月23日市街地の大半が焼失した大火の翌年、町の復興と町民の意欲、明日への希望を願い開催されたと記憶しております。しかし、少子高齢化の影響による参加者の減少など時代背景にはついて行けず、実施の是非を問うアンケート調査の結果、惜しまれつつも平成23年度開催（総開催数50回）を最後に「森町民大運動会」の長い歴史に幕を閉じました。



開会式で挨拶する元会長 坂本 元 氏



競技名：大取椽



応援にも力が入ります！



競技名：むかで競争



競技名：せんべい食い競争



競技名：交通安全競争（タイヤ転がし）





# 町民玉入大会



町民玉入大会は砂原地区では大人の大会、森地区では小学生の大会をそれぞれで実施していましたが、参加者の減少等もあり、平成24年度より森町体育協会主催事業とし、合同開催することとなりました。

現在は小学生の部・一般の部・シニアの部があり、幅広い年齢層が参加し森町民体育館を賑わせています。



開会式で挨拶する元会長 小笠原 喬 氏



開会式でのコマ



# 冬季スポーツフェスティバル

冬季スポーツフェスティバルの始まりは、昭和62年度の体協創立30周年記念事業として行われた雪中運動会のあと、マラソンバスケット、雪中ソフト、ゲートボール大会、自作ソリ大会、現在の勝ち抜きチューブ滑走大会と形を変えています。平成22年度より町民スキー大会も同日開催することで、減少傾向であった参加者も増加し、現在は冬の一大イベントとして町民スキー場を賑わせています。



2人1組のトーナメント戦で優勝を目指します



時にはこんなに飛び跳ねることも！！

スキー大会も同時開催



優勝を目指して準備運動も念入りに



若妻サークル提供のうどんは最高です！

# オニウシ公園周回マラソン

森町体育協会創立10周年記念事業

オニウシ公園周回マラソン大会は、昭和59年より陸上競技協会主催事業として、毎年お花見時期に開催されていました。しかし、陸上競技協会員減少により実施困難となり、平成26年度は開催できませんでしたが、平成27年10月10日に森町体育協会創立10周年記念事業としてオニウシ公園周回マラソンを森町体育協会主催で実施しました。



受付時に賑わう物産館横での一コマ



木野 皇 副会長に向かって選手宣誓



梶谷 亮造 町長も参戦しました



ピストルの合図でよいスタート！





# ワイナイナと走ろう/森町文化講演会

森町体育協会創立10周年記念事業

森町教育委員会と森町体育協会の共催事業として、オリンピック男子マラソン2大会連続メダリストであるエリック・ワイナイナ氏を講師として、「ワイナイナと走ろう!」「森町文化講演会」を開催しました。

森町民体育館での「ワイナイナと走ろう!」には小・中学生をメインに約100人、森町公民館での文化講演会では約200人が集まり、北海道に縁があるワイナイナ氏が感激のあまり涙する場面もありました。

森町民体育館でワイナイナと走ろう!子供たちはとても楽しそう!



森町体育協会創立10周年記念事業「ワイナイナと走ろう!」



ろう!」



夜は森町公民館で文化講演会

# 北海道マラソンが人生救ってくれた

五輪銀メダリスト

## ワイナイナさん 森で講演

小中生にランニング教室も

十またん



講演会が2日にあり、ワ  
イナイナさんは2日五  
輪の銀メダリストながら、走  
る中で「一番楽しかったコ  
ス」と振り返り、ゴルフ地  
点の歸郷路に入る直前、優  
勝した事に引き離れた  
際は「早くゴールと水を  
な中へ」一瞬しかたこ  
治通がの日本人の応援を  
耳にし、気持ちを切り替え  
て全力を尽くしたという。  
一番の思い出として上げ  
たのは初マラソンで優勝し  
た北海道マラソン。家が  
狭く、いつか親善をし  
たいと思っていた。北海道  
マラソンは彼の人生を救っ  
てくれた。ここで優勝ま  
でいながら、五輪メ  
ダルを取ることが出来な  
かったと涙ぐんだ。

講演前は町民体育館で  
町内の小、中学生ら100  
人を対象にランニング教室  
を開催。一生懸命高学年中  
生を指導するワイナイナ  
さんが、中が固まってきたら背中  
手を当ててあげるという一  
など熱心にアドバイスして  
いた。

【森】ケニア出身、日本を愛するランニ  
ー五輪マラソン銀メダリストのエリック・ワイナイ  
ナさんの講演会「ハッピーランナー(ハピスト)ラン  
ニング(前教習主権)が、町公民館で開催された。  
レーシングドライヤー田中伸博さんの掛け合いに  
よるワイナイナさんのトークを町民ら200人が案  
んじた。(池田輝)③

## 秋晴れの下、80人が健脚競う 森でオニウシ公園周回マラソン

【森】オニウシマラソン(町体育協会主催)が10日、  
の曇り空で雨しまれる「オニウシ公園」で開かれた。  
ランニング公園周回マラソン(三森 浩平)から大人まで約80人が  
参加した。



参加し、秋晴れの空の下、  
健脚を競った。  
マラソンを通じて子ども  
たちの心を広げようとし  
て始めた「健脚」は、発表式  
で村中道司氏が「皆さん  
健脚を自慢して頑張っ  
てください。私はもう走るを  
目指します」とあいさつし  
参加者を激励させた。  
大会は道の駅「YOUTO・  
庄」もりの内、物産館を  
会場に、未就学年中以上  
一般が参加に分かれて  
参加。治通やゴルフ道  
が送られ、参加者は応援を  
力に秋色に染まるオニウシ  
公園を駆け抜け楽しんでい  
た。(野口寛浩)



## ～ あの頃を振り返る ～

合併以前に旧両町の体育協会へ関わりの深いお二人へ当時の貴重なお話をいただきました。

岡田 富雄 氏・・・元砂原町体育協会会長（平成11年 ～ 平成16年）

山田 俊明 氏・・・元森町体育協会理事長（平成元年 ～ 平成14年）

### 当時特に苦勞したことなどはありますか？

岡田氏

旧砂原町体育協会としては一体感がありましたから、特に苦勞したことはありません。

山田氏

記念事業や新規事業を考えるにあたって、当時は理事会などで活発な意見を出し合い、相当な時間を要しましたし苦勞もしたね。

### 思い入れのある事業などはありますか？

岡田氏

やはり、平成14年9月に実施した砂原町体育協会創立40周年記念事業である「さわら健康スポーツフェスティバル」でしょうか。スポーツ・文化・ボランティアを通して、ふれあいとコミュニティづくり、参加者も約350名を超えており、会場は賑わいを見せていましたね。

山田氏

そうですね。昭和57年11月に実施した体育協会創立25周年記念事業のバレーボール日本リーグ男子による「日本鋼管対松下電器」の試合開催や、平成9年10月に実施した創立40周年記念事業の世界選手権出場選手による「新体操演技会」には苦勞もしましたが、観客の満足そうな顔は今でも忘れられませんね。

### これからの森町体育協会へ望むことはなんですか？

岡田氏

森町・砂原町が合併して10年が経ちますが、合併当時は古くから続く森町民大運動会という一大事業で盛り上がりを見せていましたが、参加者の減少などから実施が困難となり、現在はそういった事業がなくなり非常にさみしく思います。しかし、形は違うものでも町民一体となる事業をこれから考えていただき、森町、森町教育委員会、森町体育協会が一体となり事業等を進めて欲しいと思います。

山田氏

やはり各単協が競技スポーツとして頑張って良い成績を残して欲しいというのが本音ですが、昔の体育協会のような体育会系のガチガチの固い組織では存続が難しいのかなと思います。時代背景もあるでしょうし、もう少しソフトな組織づくりをする事で、長く存続できるのではないのでしょうか。また、2020年開催の東京オリンピックと併せてこれからの森町体育協会の組織強化や盛り上がりを見せることを願っています。

# 加 盟 団 体

- ・ 剣道連盟
- ・ バレーボール協会
- ・ 水泳協会
- ・ 陸上競技協会
- ・ ソフトテニス協会
- ・ ソフトボール協会
- ・ 柔道協会
- ・ サッカー協会
- ・ ミニバレー協会
- ・ ゲートボール協会
- ・ バスケットボール協会
- ・ ペタンク協会
- ・ バドミントン協会
- ・ 野球協会
- ・ 森町パークゴルフ協会
- ・ さわらパークゴルフ協会
- ・ スキー協会

# 剣道連盟



## 沿革

第二次世界大戦終了間もない、昭和20年11月6日に旧文部省（現文部科学省）通達により、学校剣道が全面禁止となり、日本古来の武道でもある剣道が壊滅的打撃を受けた。しかし、それ以前より剣道に携わってきた諸先輩方の地道な活動と弛まざる努力が実を結び、昭和28年5月に一般社会教育としての剣道が認められる形となり、同年5月1日付けで北海道剣道連盟（現：一般財団法人 北海道剣道連盟）が正式に発足した。

森町においても、一般の剣道愛好者による活動が細々と続けられていたが、昭和28年に森町在住の剣道愛好者らによる「森町剣道愛好会」が発足し、森警察署道場を活動拠点として、一般による剣道愛好のみならず、小中学生を対象とした少年指導も開始された。

その結果、着実に剣道愛好の輪が拡大したが、それと同時に、各種大会への出場、昇級・昇段審査受験を希望する声が高まるも、日本剣道連盟（現一般財団法人 全日本剣道連盟）に属する傘下剣道連盟への加入が必要となり、函館剣道連盟に協力を願い、昭和38年に函館剣道連盟森支部として発足し、青少年育成と更なる愛好者の輪を広げるべく活動を続けてきた。

また、剣道を通しての青少年育成にも更に力を注ぎたいと、「森町剣道愛好会」を母体とし旧文部省に登録認可を行い、故・新開春吉氏（錬士六段）を初代代表として昭和40年8月19日に「森剣道スポーツ少年団」を正式に発足させた。

その後、昭和43年に北洋銀行森支店長として赴任してこられた、故・小山忠雄氏（教士七段／二代目森剣道スポーツ少年団代表・二代目森剣道連盟会長）を新たな指導員としてお迎えし、昭和44年に新築された青少年会館へと活動拠点を移行した。ただ、同少年団発足を契機に森支部の加入人数が増加したが、各種大会出場のための参加枠、また、昇級・昇段審査受験手続きを函館剣道連盟を通して申請していたが、そのやりとりが困難を極めた為、独立要請があり、当時の森支部会員各位と協議の結果、昭和51年5月19日に設立総会を開催し、既約草案の準備と承認・役員選出等の準備を整えた後、北海道剣道連盟に新規剣道連盟立ち上げの申請を提出し、昭和51年6月1日付けで森剣道連盟（初代会長：中山二土夫氏）が正式に発足した。

森剣道連盟発足に伴い、昭和40年に発足した森剣道スポーツ少年団は傘下団体となり、その後、昭和59年に発足した濁川地区の「濁川剣道スポーツ少年団」、旧砂原町の「砂原剣道スポーツ少年団」、森中学校剣道部、森高校剣道部も傘下団体となり、青少年への健全育成を中心に活動を開始した。

そして、平成9年に新築された森勤労者総合スポーツ施設「サンビレッジ森」へと活動拠点を移行し、平成18年には、山口誠氏（教士七段）が三代目森剣道スポーツ少年団代表・三代目森剣道連盟会長に就任され、現在に至る。

しかし一方で、他競技の活動拡大ならびに少子化問題もあり、国内全体の剣道人口減少が日に日に増していくに連れ、団員・指導員の確保が困難になっていき、傘下団体の砂原剣道スポーツ少年団が平成18年3月31日付けで、濁川剣道スポーツ少年団が平成23年3月31日付けでそれぞれ活動を休止せざるを得なくなった。

平成27年現在は、森剣道スポーツ少年団・森中学校剣道部・森高校剣道部の三団体が傘下団体として活動をしており、同年8月19日付けで森剣道スポーツ少年団は創立50周年を迎えた。

## 10年間のあゆみ（平成17年～現在までの全道・全国規模の大会）

剣道連盟の活動は沿革にも記載した通り、青少年への育成を主に活動をしてきたため、こちらでは傘下団体の活動について記載させて頂く。

### ☆平成17年

- ・第39回青少年剣道旭川大会（旭川市）・低学年の部優勝  
（吉田 倭子・高松 伸彦・横山 楓・本庄 修也・木村 健悦）

### ☆平成18年

- ・第55回北海道少年剣道錬成大会 兼 第48回赤胴少年剣道錬成大会（札幌市）  
個人準優勝・小笠原 亮

### ☆平成19年

- ・第56回北海道少年剣道錬成大会 兼 第49回赤胴少年剣道錬成大会（札幌市）  
個人優勝・五十嵐 宥磨
- ・第22回北海道スポーツ少年団剣道交流大会（札幌市）  
中学生男子個人・優勝 藤澤 大輔
- ・第30回全国スポーツ少年団剣道交流大会（静岡県藤枝市）  
中学生男子個人出場・藤澤 大輔

### ☆平成20年

- ・第43回全日本少年剣道錬成大会（東京・日本武道館）・小学生全国ベスト16  
（本庄 修也・太田 純人・長瀬 優太・高松 詩郎・高松 伸彦）
- ・第57回北海道少年剣道錬成大会 兼 第50回赤胴少年剣道錬成大会（札幌市）  
個人優勝・高松 伸彦

### ☆平成21年

- ・第43回青少年剣道旭川大会・小学生高学年団体優勝  
（坂井遥夏・林 功汰・太田 純人・小松 優斗・高松 詩郎）

### ☆平成22年

- ・第29回北海道高等学校新人剣道大会（札幌市）  
男子個人優勝・藤澤 大輔
- ・第52回全国都道府県対抗剣道優勝大会（大阪府大阪市）  
北海道代表チーム先鋒として藤澤 大輔が選出され出場。全国第三位。

### ☆平成23年

- ・第34回全国スポーツ少年団剣道交流大会（兵庫県姫路市）  
中学生女子個人出場・吉田 倭子
- ・第46回全日本少年剣道錬成大会（東京・日本武道館）・中学生全国ベスト16  
（本庄 修也・黒坂 勇希・高松 詩郎・長瀬 優太・高松 伸彦）

---

#### ☆平成24年

- ・第35回全国スポーツ少年団剣道交流大会（山梨県甲府市）・小学生団体出場  
（三十尾 稜・尾張 陽菜・太田 海渡・長瀬 沙紀・川口 翔太郎）
- ・第7回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会（大阪府大阪市）  
北海道代表チームの副将として高松 詩郎が選出され出場。
- ・第26回北海道スポーツ少年団剣道交流大会（札幌市）  
中学生男子個人・優勝 高松 詩郎

#### ☆平成25年

- ・第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会（佐賀県佐賀市）  
中学生男子個人出場・全国第三位 高松 詩郎
- ・第8回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会（大阪府大阪市）  
北海道代表チームの副将として大場 洵が選出され出場。

#### ☆平成26年

- ・第9回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会（大阪府大阪市）  
北海道代表チームとして川口 翔太郎が選出され出場。

#### ☆平成27年

- ・第64回北海道少年剣道錬成大会 兼 第57回赤胴少年剣道錬成大会（札幌市）  
個人優勝・白鳥 海羽空  
団体準優勝（白鳥 海羽空・高松 真子・中澤 愛翔・長瀬 大地・長谷川 陽大）

---

## 今後の活動

剣道人口減少による道場存続危機に危ぶまれてる道場もある中で、我が森町は常時30名以上の小中学生の在籍数を維持することが出来、且つ、全道・全国大会レベルで多くの結果を出すことが出来た。また、少年団活動においても、先述通り剣道人口減少により他道場では指導員確保が困難を極める中、森町では常時、4～5人の指導員を確保することが出来、他では見受けられない素晴らしい環境下で青少年育成に力を注ぐことが出来る。また、低学年交流大会、全道小学生錬成会など低年齢の選手からでも高いレベルで試合を経験出来る環境を常に整えて、積極的に開催を進めると同時に、他地域の剣道連盟同士の交流、また森町の各種行事への参加、森町体育協会や他の単協との活動を通じて更なる青少年の健全育成に努めていきたい。



## 現在の協会員名簿（平成27年10月16日現在） 会員数46名

役	職	氏名
会	長	山口 誠
副	会 長	長瀬 昇・外山 正幸
理	事 長	廣中 美紀子
理	事	長瀬 賢一・長瀬 敏文・藤嶋 希・太田 康志・白鳥 圭 小山内 裕介・花田 浩士・宮澤 謙輔
代	議 員	高松 潤一・長瀬 敏文
体	協 理 事	小山内 裕介
事	務 局 長 ・ 会 計	高松 潤一
監	事	高村 忠峰・宮下 広光

## 活動写真

平成27年・元旦初稽古会（一般・小中高校生・大学生含め約60名参加）



小学生全道団体準優勝・個人優勝



夏のまつりinもり参加時の集合写真





# バレーボール協会



## 協会のあゆみ

昭和48年に森町バレーボール協会が発足し、昭和52年から昭和58年頃に黄金時代を築いた。この時期の男子チームは渡島地区で常勝し、全道大会においても輝かしい成績（昭和53年準優勝2回、昭和55年準優勝2回）を残していた。昭和56年には全国青年大会出場を果たすなど、過去にない盛り上がりを見せた。

【当時の会長：中村良実、当時の主将：三沢真規夫、当時のエース：谷口方規】

しかし、全国大会に出場したチームは2年間道民スポーツ大会や青年団体競技会（体育大会）の地区大会に参加できないという規約によって、その後出場できる大会が減り、試合で勝つという目的意識も薄れ、活動自体も停滞していくことになる。その頃から週2回の練習が週1回に減り、まとまった練習をする機会も少なくなっていった。

協会員が高齢化する中、若い人材の加入も極めて少なく、対外的な活動は停滞せざるを得ない状況であったが、町民バレーボール大会は、毎回多数の参加があることで盛大に行われてきている。協会員以外の多くの町民にもバレーボールが普及している様子を開催の度に肌で感じることができる。これには、森高校バレーボール部、森中学校バレーボール部、尾白内バレーボール少年団との連携は絶えず必要となっている。

平成5年以降の対外的な活動としては、道民スポーツ渡島夏季大会への参加があり、渡島北地区の予選では、毎年八雲町との代表権争いとなるが、平成5年に長万部町に代表権を奪われた以外は、平成6年から4年連続で代表権を獲得し、渡島大会に進出している。渡島大会でも、平成6年の26回大会では3位、平成7年の27回回館大会では優勝と、好成績を収めている。

しかしながら、過去同様にこのような好成績を収めてはいるものの、今後更なる発展を願っても、その展望は決して明るいものではなかった。当時のバレーボール協会の最大の問題点であり、真っ先に解決していきたくったことは、週1回の練習活動を再開することであった。この時期は協会員の人数がどんどん減っていき、絶対数が少なく、それぞれ仕事を持った中での活動が大変であり、細々と活動することしかできない「冬の時代」を経験してきている。

また、協会員の減少とともに、森町においてのバレーボール人口も減少したことから、町民バレーボール大会においても、年2回町民体育館を会場に行っていたが、参加申し込みが少なくなり、平成7年と平成8年には年1回の実施となってしまう、参加チームも昭和50年代後半から平成の始めにかけて、男女合わせて20チーム以上あった参加が、平成8年には10チーム、平成9年1回大会では7チームにまで減少したこともあった。（平成9年からは年2回の大会実施を再開。）

そして、協会を存続するため、この「冬の時代」を乗り切るため、協会員一同力を合わせることにした。平成10年以降、自由クラブとの繋がりを生かし、ともにバレーボールをするという機会が増え、週2回の練習を確保していくこととなる。また、この頃には、高卒のバレーボール経験者が（森中学校に男子バレーボール部が再開した時の部員が高校卒業を迎える時期のため）増えていき、積極的な協会加入促進を行うことで世代交代を成し遂げることとなる。

【この時期にその後中心を担う、青山健太、藤田幸大、藤田早苗、蛭沢彰則らが加入する。】

## 最近の町民バレーボール大会結果

年 度	参加チーム			男子優勝チーム	女子優勝チーム
	男子	女子	合計		
平成21年度	4	9	13	蛭P	森協会
平成22年度	5	6	11	蛭P	森協会
平成22年度	7	9	16	蛭神	森協会
平成23年度	4	3	7	SVC	森協会A
平成23年度	3	7	10	蛭P	森協会B
平成24年度	3	3	6	森協会A	森協会B
平成24年度	4	10	14	森inks	1部 森協会B 2部 尾白内少年団
平成25年度	4	3	7	森協会Z	森協会A
平成25年度	3	10	13	Life is	1部 森協会A 2部 尾白内クラブ
平成26年度	6	5	11	森協会A	森協会B
平成26年度	2	9	11	森協会	1部 森協会A 2部 W A I

## 10年間のあゆみ（平成17年～現在まで）

「冬の時代」を乗り越えて、協会が存続できたこと、これがなにより良かったことであります。ちょうど10年前位から徐々に協会員が増えてきており、今では30人を超える過去最大規模の大所帯であります。人数が増えることにより試合や練習面においては良いことが目立ちますが、人数が多いことで生じる様々な問題（不平等感、結束力の低下等）は、組織を統一するために、相応の対策を講じなければ、現状を保つことはもちろん、発展していくことも難しいところです。

ここ数年では、練習や試合に向けての意欲向上を図るため、協会員にアンケートを実施し、練習内容の精査、希望のポジション等を確認し、紅白戦を実施することで連携の強化などに繋がりました。また、協会員同士の交流や結束力向上のため、協会内での男女混合大会（6人制や4人制）を実施し、協会名と名前入りのアップ着を揃え、更には忘年会に加え新年会（1泊付き）を毎年恒例行事としてきました。

また、これまでずっと苦戦してきた町民バレーボール大会の参加チーム減少に対して、近隣市町の招致、未経験者の発掘、女子の部では経験者は1部で未経験者は2部と分けることで参加しやすい大会運営に努めてきているところです。

この他、当協会の発展を目的とし、函館市の市民大会、市町村大会や9人制、北斗市の男女混合大会、松山地区の様々な大会（いずれも男女ともに優勝した大会が多数。）に積極的に参加し、渡島・松山の各団体や個人と繋がりを持つことで、森町において会長杯、交流大会、パン屋主催大会等、新たな大会を創設し、町外から多数の参加をいただいているところであります。そして、森町で開催する大会の時は基本的に商工会議所に依頼し、物産協会から購入した町の名産物を景品としており、森町のPRも含め町内にバレー人と呼び込めるきっかけの一つと考えております。

## 主な年間出場大会

例年開催月	大会名	会場
4月	道南リーグバレーボール大会	函館市
6月	9人制バレーボール大会	函館市
"	森町バレーボール協会 会長杯	森町
7月	渡島スポーツフェスタ (バレー)	森町
"	道南リーグバレーボール大会	函館市
9月	函館市近隣市町村バレーボール大会	函館市
"	桧山スポーツフェスタ (バレー)	桧山地区
10月	町民バレーボール大会	森町
"	6人制男女混合大会	北斗市
11月	八雲町近隣町村バレーボール大会	八雲町
"	9人制バレーボール大会	函館市
"	ひそっふ杯	瀬棚町
12月	町民バレーボール大会	森町
"	道南リーグバレーボール大会	函館市
1月	森町交流大会	森町
2月	森のパン屋さん たむら杯	森町
"	今金町石井杯	今金町
3月	函館市民バレーボール大会	函館市
"	春季親善市民バレーボール大会	北斗市

## 現在の協会員名簿 (平成27年10月1日現在)

役職	氏名
会長	蛭沢 彰則
副会長	小林 咲子
事務局長	藤田 早苗
事務局長	角野 大輔
理事	菊地 岬
監事	大星 友美
代議員	大谷 菜々
代議員	水口 祐太
協会員	菊地 透、菊地 等、角 正俊、藤田 幸大、桧森 守、三浦 正彦、神田 俊勝、溝口 芳樹、小林 涼介、西村 仁志、菊地 翔、谷口 友規、高井 悠汰、東 亮、岩村 由香、西川 優子、尾張 映子、神田 明菜、一戸 沙生、蛭沢 里奈、木村 佳奈、高瀬 友美、岩井 和恵、桜庭かれん、山本 里奈

## 活動写真

現在の協会の集合写真



練習風景



町民大会の様子



毎年恒例新年会の集合写真



## 今後の目標

協会は、学生の部活やサークルのように同年代や同目的の集まりではなく、年齢もバラバラで目的もそれぞれ違い、職場も地元も違います。それなのにバレーボールというもので繋がっている。健康のため、楽しいから、勝ちたくて、友人との遊び、時には出会いも、バレーやっていたから、なんとなく、理由は何でも良いですが、まずは今いる協会員がそれぞれの目的で目一杯有意義な時間を過ごせる環境を継続していきたいし、整えていきたいです。そのためには、基本は楽しむということを大切に、協会内の交流行事とイベントの継続や充実、体育協会等との連携を図り、当協会の存続に努めていきたいと考えております。

次に大会運営についてですが、近年、近隣市町の参加可能な大会を発掘し、森町で開催する大会を増やしてきたため、年間を通して数多くの大会に参加出来る体制を構築してきたところですので、これからは協会員のモチベーションと大会参加可能人数や各大会のレベルとをリンクさせながら参加をしていきたいと思えます。

最後に、「バレーボール」とは

自分のカラダのどこかに一瞬触れるだけ。次もその次も敵ではなく、味方がまた一瞬触れるだけ。この繰り返して勝負をする。たくさん練習しても同じこと。1人の方だけでは点数にはならない。(サブ以外。) ボールを自分たちのコート内に落とさないように味方と力を合わせるもの。決してボールを待ち歩いてはいけない。もちろんキープをしてもいけない。ワンタッチしか許されない世界。

私たちは、そんなバレーボールの難しさ、チーム力の大切さ、奥深さに魅了され続けている。

バレーボールの魅力を伝え、共有して、森町バレーボール協会の発展に繋げていきたいと考えております。

# 水泳協会



## 協会の沿革

- ① 森町水泳協会が誕生したのは、昭和33年4月で初代会長は、森中学校長の安木善政氏でした。
- ② 2代会長は、落合義雄氏、3代目は福土三郎氏、4代目が現会長の鈴木眞一氏。
- ③ 発足以来、日赤森分区・森町教育委員会・森町社会福祉協議会などの援助により、各種事業を実施してきた。

## 10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

### ① 視察研修

○小学生水泳教室の実施に先だち、道内のプールの視察訪問をし、プールの現況や事業活動・指導方法について、研修会を開いた。

#### ○視察訪問したプール

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| △平成18年八雲町温水プール | △平成22年北斗市大野町温水プール |
| △平成20年鹿部町温水プール | △平成24年南茅部町温水プール   |

### ② 小学生水泳教室

○低学年水泳教室(1年生・2年生)ファミリーヘルズプラザ(砂原プール)

毎年7月25日頃(2日間)実施

○高学年水泳教室(3年生～6年生)森小学校プール

△毎年7月下旬(3日間)実施しているが、夏休み中でもあり、他のスポーツ少年団の夏期練習とかちあうので、平成25年頃から参加者が、少し減ってきている。

③ 駒ヶ岳保育所から、水泳補助員の依頼を受けて毎年2名グリーンピア大沼のプールで、指導に当たってきた。(5年間)

④ 水中レクリエーション(森町教育委員会主催で、砂原プールで開催)

- |       |            |                |
|-------|------------|----------------|
| △競技内容 | ○水中ジャンケン列車 | ○水中玉入れ<8月20日頃> |
|       | ○水中ドッジボール  | ○水中宝探し         |

### ⑤ 森町民水泳大会

△主催が水泳協会、後援が森町教育委員会

毎年8月下旬の土曜日に森小学校プールで開催している。

△競技役員として水泳協会員は勿論のこと、森町民体育館長をはじめ職員の方々、森小プール監視員の方々、そして森小学校の教職員の方々の、全面的協力・支援を賜って実施している。

- △競技種目は
- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| ○25m自由形   | ○ビート板(小3～小6)20m       |
| ○50m自由形   | ○100m個人メドレー(小5～小6)中学生 |
| ○25m平泳ぎ   | ○100mリレー(小3～小6)       |
| ○25m背泳ぎ   | ○ジュース拾いA幼児1～2年生       |
| ○25mバタフライ | ○ジュース拾いB小3年生以上        |
| ○初心者ビート板  | ・小学1年 10m ・小学2年 15m   |

- △最後まで、参加した選手全員に記念品をプレゼント
- △ビート板完泳証と副賞(文具セット)
- △入賞者(6位以内)の記録証と副賞(大学ノート)
- △リレーは入賞者全員(補欠を含む)に賞状と副賞(大学ノート)
- △諸々の関係上、年々水泳大会の参加人数が減少してきている。

◎ その他の特記事項

- 永年(40余年)会の企画・運営推進に努めた事務局長の松浦須枝二氏が、平成26年10月下旬に死去。(多大なる貢献者)
- 会の諸々の事柄で、寄与された。中村良美氏が死去。(平成26年11月)

## 現在の協会員名簿 (平成27年10月16日現在)

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	鈴 木 眞 一	監 査	梶 谷 和 子
副会長(代議員)	齊 藤 公 生	協 会 員	安 谷 内 奈 央 子
事 務 局 長	田 子 信	"	田 子 眞 弓
協 会 員	海 津 道 治	"	金 田 全 子
"	兼 田 知 子	"	加 藤 正 彦

## 活動写真

平成27年 水中レクリエーション



# 陸上競技協会



## 協会の沿革

### 青葉ヶ丘公園グラウンド

森町民の憩いの場所である桜の名所、青葉ヶ丘公園内グラウンドは、大正3年森小学校関係者により造成された。最初は運動会などに利用され、昭和4年に本格的グラウンドに大拡張工事が行われた。戦前から昭和34年まで多くの陸上競技大会が開催された。

現在は、数十年前に再工事され、町の各大会（町民運動会、野球、ソフトボールなど）に使用され町民の愛着がたいへん強いグラウンドである。

### 森町宮森中学校第4種公認陸上競技場

現、さくらの園の後方に旧森中学校第4種公認陸上競技場があった。このグラウンドは昭和35年10月20日～昭和52年10月まで公認を取り、中学生だけでなく高校生もこのグラウンドまで出向き練習を重ねたようだ。この公認グラウンドのおかげで町の陸上競技の人口が増加し、いつでも気軽に練習ができるので中学、高校生だけでなく一般の人や夏休み中の大学生もよく練習に訪れていたようだ。

また、このグラウンドで出した記録は日本陸連の公認記録になり、中体連地区大会は毎年森中学校を舞台にして実施され、全校生徒あげての応援はたいへんな活気があったようだ。

他にも、全道加盟団道南地区予選会や道民スポーツ大会の競技会も実施され、公認グラウンドとして有形無形の働きを果たした。

### 統合中学校グラウンド

昭和52年10月で、中学校陸上競技場が公認切れとなり昭和56年以降は現在の中学校のグラウンドが陸上競技大会会場として利用されていた。広さが400Mトラックも作れるほどあるので、競技場として造成出来ていればと惜まれる。

## 協会のあゆみ

### 森町内小学校陸上競技大会

昭和58年から実施されたこの大会は、毎年7月の第1週に行われた。全道、全国的にも高いレベルにある小学生の陸上競技を培った。この頃の小学校の陸上競技は森小学校、鷺ノ木小学校を中心にして活躍はめざましいものがあつた。しかし、平成8年より森町小学校スポーツフェスティバルとなり現在に至る。

### ライオンズカップマラソン大会

昭和57年まで行われていた町民駅伝大会が交通事情からなくなり、昭和58年から鳥崎川溪谷の道路を利用して、野球場を発着点とする健康マラソン大会となった。そしてライオンズカップマラソン大会となり、青葉ヶ丘公園グラウンドを発着点として平成7年まで実施された。この大会は「ライオンズカップさわやか交通安全マラソン大会」に改称され毎年体育の日に行われていた。



## 道民スポーツ大会

昭和59年第16回大会を最後に陸上競技大会は行われていなかったが、平成5年7月上磯町公認陸上競技場（現北斗市）で長距離のみ実施された。市町村順位では8市町村中4位となった。

## オニウシ公園周回マラソン大会

オニウシ公園周回マラソン大会は昭和59年より当協会主催行事として実施され、オニウシ公園の周遊路を利用して物産館横がスタート及びゴールで学年別で周回が決められている。初期の頃は300人程の参加があったが現在では小学生数が減少し参加者が少なくなっています。時期は花見の季節に実施していましたが、今年は10月に実施しました。また、長年当協会が主催していましたが、協会員が少なくなり当協会だけでは実施困難になり、昨年は実施せず、今年は森、砂原、合併10周年記念して体育協会主催で実施しました。

## 短距離記録会

平成27年10月に当協会主催の第1回記録会を実施しました。町内に住む未就学児、小学生、中学生を対象にして実施しました。種目は、未就学児50M、小、中学生100M、800Mです。参加数は、80名ほどでしたがとても活気のある大会になりました。

## 今後の目標

陸上協会の今後は、小学生、中学生、高校生を指導育成し、将来的には森町よりオリンピック選手が出てくれる事を願う。また陸上指導者を募り少年団を作っていきたい。森町に陸上競技場があれば陸上競技人口の増加をはかると思います。当初は多くの選手、協会員がいましたが、現在では協会員3名しかおらず危極的な状況になっているが陸上愛好家の協力得ながら努力して行きたい。



平成27年10月10日 オニウシ公園周回マラソン 集合写真



# ソフトテニス協会



## 協会の沿革

森町ソフトテニス協会は、昭和42年に森町体育協会に加盟して以来、50年近くにわたり愛好者を中心として活動を続けています。

昭和48年には清澄町にテニスコートが完成しました。夏期は当テニスコートで、また、冬期は森町民体育館及び森小学校体育館で練習を行っています。

## 合併から10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

最盛期には150名近くの会員を擁していた当協会ですが、会員は年々減少し、現在はわずか6名となりました。また、会員全員が60歳以上で高齢化も深刻となっており、大会の開催やコート整備等の協会運営に支障をきたす状況となっています。

そのような状況ですが、夏期には「月例会」として毎月大会を開催しているほか、冬期には「町民インドアソフトテニス大会」を開催し、協会の継続運営のため努力を続けています。

また、平成26年度より小学生（2～6年生）6名を指導し、ソフトテニス愛好者拡大の契機として期待が高まっています。

※平成17年からの主な大会参加結果

実施年月日	大会名	開催地	成績
平成17年7月24日	第34回渡島町村対抗ソフトテニス大会	知内町	壮年3位
平成17年9月11日	第27回道新杯 (昭和54年から実施していたが、当年で最後となった)	森	下記の表を参照
平成19年7月1日	平成19年度渡島スポーツフェスティバル	知内町	壮年2位
平成21年6月28日	平成21年度渡島スポーツフェスティバル	北斗町	壮年2位

※第27回道新杯

A級	B級
1位 中田 剛・小笠原 啓子	1位 島山 美智子・千葉 セイ
2位 小笠原 喬・野崎 常二	2位 高橋 茂広・森田 幸子
3位 桑田 光・佐藤 克史郎	3位 阪井 和子・阪井 恒雄

## 現在の協会員

役職	氏名
会長	森田 幸子
代議員	島山 美智子、千葉 セイ
事務局長	中田 剛
幹事	小渡 英子、和田 和香子

## 今後の課題

最盛期には150名近い会員が所属していた当協会ですが、現在の会員数は6名となり、その全員が60歳以上と高齢化も進んでいます。大会の運営やコート整備等に支障をきたしているため、新規会員の獲得が急務となっています。

小学生への技術指導や大会開催を通じて、テニス競技の魅力を伝え、森町内におけるテニス愛好者の裾野を広げる活動を積極的に実施していきます。



月例会



ジュニア教室

# ソフトボール協会



## 協会の沿革

森町ソフトボール協会は昭和51年11月設立、およそ40年、その時その時のドラマを作りながら歴史を重ねて参りました。

初代ソフトボール協会長に故新海富幸氏、事務局長に故吉水正明氏でスタートし森町のスポーツ人口最高位の中で、健康づくりと親睦の和を作り上げました。

設立当時「底辺の拡大とレベルアップ」をモットーにスポーツ愛好者を募集した結果、24チームが登録、毎年ソフトボール人口が増え、昭和56年5月の町民ソフトボール大会時には34チームが参加し、2日間をかけての盛大な大会になりました。

昭和52年から平成5年頃までは、毎年20チーム以上が協会チームとして登録、協会長杯争奪大会は、青葉ヶ丘公園グラウンドA.B.C.Dの4面を使用し、外野同士、お互い声掛け合いながら優勝旗をかけて日没まで汗と声援で賑わっていました。

昭和61年度、時を物語る協会登録27チーム名を紹介します。( )は監督名

駒ヶ岳クラブ(北村 裕)・コートクラブ(佐々木 功)・石倉クラブ(坂本正則)・マスターズ(高村忠之)・日林旁(林 五郎)・緑ヶ丘ビクトリーズ(真鍋義廣)・鳥崎サーモンズ(沢谷忠行)・蛭谷青年クラブ(東谷 穂)・港クラブ(松川唯行)・自由クラブ(山口繁夫)・函港倶楽部(中村方哉)・アウトローズ(中坂俊一)・農協3Mクラブ(松浦 渉)・鳥崎ホワイト(菊池良三)・ドリフターズ(阿部邦夫)・藤井産業クラブ(斎藤 徹)・ブルーファイターズ(日景勝美)・MFクラブ(古川輝和)・JBクラブ(松田定男)・リーゼント(吉田幸二)・尾白内ヘッターズ(加藤正三)・メルローズ(福田淳一)・本茅部青年会(板木信明)・N.T.T森(田中祥文)・開発アキタクラブ(高田鉄三郎)・ゴットファーザーズ(石岡光雄)・森自動車学校(竹森幸雄)以上。

青葉ヶ丘グラウンドだけでは足りず森小学校、旧森高校、尾白内中、駒ヶ岳小を借用しての大会にもなり活気に満ちていました。

また、子供達の数も多く、町内会対抗少年少女ソフトボール大会、協会長杯争奪大会、秋季少年大会など多くの大会が生まれ子供たちの声がグラウンドに響き渡かしい限りです。

平成10年頃からはソフトボール人口が激減、趣味もチームワークを必要とする団体から脱皮し個人の楽しみ方へと向きを転換させたのか、車社会に洗脳されたのか10チーム程になってしまいました。チームの減少は現在進行形で平成27年は4チームです。

5年後の東京オリンピック種目候補に上がっているソフトボールを、協会・選手一丸となり対外試合等を考慮、人口増を計る予定です。

この40年を振り返ると、昭和52年から平成26年まで、陰になり日向になり全てを支えてくれた故中村良事務局長を忘れずにはいられません。発足当時から今日までソフトボール協会が継続して来られたのも故中村氏の御蔭といっても過言ではありません。冥福を祈りたいと思います。

## 10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

森・砂原合併10周年おめでとうございます。

森町ソフトボール協会は砂原在住や企業等の単独チームや混合チームを期待しておりましたが残念にもこの10年間1チームもありませんでした。この10周年を機に協会に加入してもらえたらと、さらに期待し歩みます。

平成17年度登録チーム

ミレニアムズ・ヤングサーモンズ・バジャーズ・森マリナーズ・メルローズ・天狗・リーゼント・ミート佐々木スポーツクラブ・ゲッツ・尾白内ヘッターズ・日冷 11チーム

平成17年度ソフトボール協会長杯争奪大会結果

大会年月日	チーム名	成績
平成17年5月22日	森マリナーズ	優勝
平成17年6月19日	天狗	優勝
平成17年7月17日	ミレニアム	優勝
平成17年10月9日	ヤングサーモンズ	優勝
平成17年10月16日	森マリナーズ	優勝

平成26年度登録チーム

サムライ・バジャーズ・TSBT・ミート佐々木スポーツクラブ

平成26年度ソフトボール協会長杯争奪大会結果

大会年月日	チーム名	成績
平成26年5月25日	サムライ	優勝
平成26年6月15日	ミート佐々木スポーツクラブ	優勝
平成26年7月20日	TSBT	優勝
平成26年9月21日	サムライ	優勝
平成26年10月19日	TSBT	優勝

## 現在の協会員名簿

役	職	氏名
会	長	中澤 克宣
副	会 長	清水 茂信・平田 晶彦
事	務 局 長	増田 徹
体	協 代 議 員	吉田 幸二・藤脇 良弥
理	事	高橋 宏幸・荒川 健太
監	事	松林 哲也
協	会 員 (チーム)	サムライ・ミート佐々木スポーツクラブ・バジャーズ・TSBT

## 今後の目標

昨年（平成26年）11月、事務局長中村良実氏の計報で協会は一時途方にくれましたが協会員一同は納会・役員改選を機にソフトボール協会を継続、競いながら和を保つスポーツを楽しむことにいたしました。

中澤克宣会長をはじめ、増田徹事務局長、経験豊富な清水茂信、吉田幸二のアドバイスを受けながら機敏に動く平田晶彦、藤脇良弥、若手の審判員荒川健太ほか協会員は体育協会に協力しながら協会を盛り上げていく次第です。

ソフトボール愛好者が減少する中、もう一度グラウンドで土ほこりを上げ、体力と忍耐が続く限りプレーを楽しみ、青葉ヶ丘公園グラウンドを賑やかにしたいと考えております。



ミート佐々木スポーツクラブ



TS&T



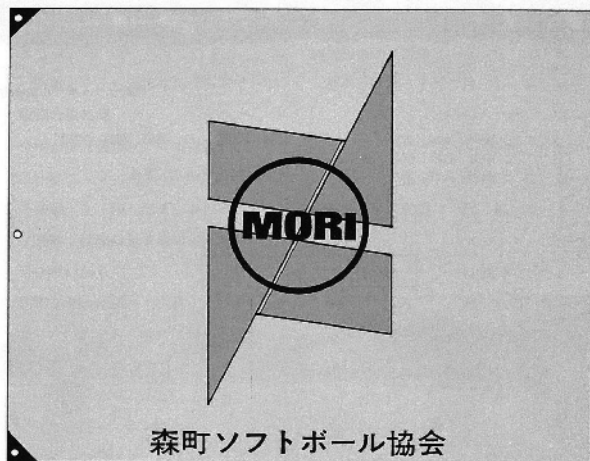
サムライ



バジャーズ



## 森町ソフトボール協会旗



……スポーツの清潔さ—青色、ソフトボール協会のS—青色



……チームワークを表わす—赤色

**MORI** ……赤色は熱血さを表わす



森町ソフトボール協会審判員

(左より) 後列 大林、吉田(利)、菱沼、森田、鹿原、山口、高田、村林、中村  
 中央 古沢、沢谷、金見、東、釣谷  
 前列 入江、木村、丹羽、谷口、新高、桜田、小井田、千葉



# 柔道協会(森鷲館)



## 沿革、故 小野専一 著

### (1) 森町柔道の先駆者

森町の柔道の歴史は古い。森町の柔道は警察署の道場によって発展してきた。そして森町の柔道を語る時、忘れてはならない人がある。今は故人となられた坂本清、貞夫（町議坂本和夫の兄）の両兄弟である。この両兄弟はともに函館商業、明治大学と進学され、二人とも両校の主将をつとめた人である。

私が、この両兄弟に師事したのは、師範学校に入学して本格的に柔道を修行するようになってからである。丁度その時は、日支事変が始まった時でもあり、柔剣道は国策としても盛んに奨励された。昭和12年から13年にかけて夏冬休み、春休みになると学生、生徒は心身の鍛錬と技の向上のため警察の道場に通った。

一方、昭和9年に森小学校に笠原利重先生が着任された。私は、その時は高等科の生徒で、笠原先生から学業とともに柔道の指導も受けた。森小にはその後、角谷先生、落合先生、平山先生が赴任され、量も整備され、活発に練習が積まれ、柔道発展への基礎が築かれていったのである。町助役の吉田喜一郎氏も笠原先生の門下生として柔道修行に精を出された一人である。

昭和9年秋に、森小学校運動場で中央から講師もこられ柔道大会が盛大に行われた。

昭和12年7月末、明治大学柔道部が夏季練習で北海道遠征した時に、坂本清氏の御里ということで、特に森町民に柔道を披露するために森小学校運動場で練習が公開された。

この時には、坂本清氏をはじめ大学生の柔道を見ようと運動場を満員にさせるほどの盛況を呈した。前述した夏休みになると柔道を修行している学生、生徒、一般の人は森小の運動場に毎夜のように集まった。練習には坂本氏だけでなく、大学生では森氏（有段者会長）、今井甫氏、今井四郎氏も参加された。この先輩たちも森町の柔道の先駆者としては忘れてはならない人達である。

坂本清氏の偉大なる人格、技量が同輩や後輩を惹きつけたものであると銘じている。

### (2) 若き日の柔道愛好者

坂本兄弟の影響を受けて、函館や八雲の中等学校に入ってから柔道をやった人は意外と多い。

今記憶に残る人々の名前を挙げてみると、函館には佐々木敏夫、岩島隆一、押切幸一、若松正光、種田育三、函工には吉村文夫、函中に坂本和夫、函師に小野専一、八雲中学には小池利一郎、藤島芳春、児玉猛、松居榮治、小樽水産に澤田英雄、小樽工業に菊地忠秋と、懐かしい人々が、自己の鍛錬と学校の名誉をかけて柔道に打ち込んできたのである。

こうして柔道修行に青春をかけ、森町柔道発展の輝かしい歴史を築いてきた人々の中で、いまわしい太平洋戦争に出陣し戦死された先駆者坂本清、貞夫の兄弟、種田育三、今井四郎、後に病にたおれた児玉猛の各氏のご冥福を祈るとともに森町柔道発展に尽くされた功績に対し甚大なる敬意を表すものである。（小野専一 記）

森町柔道界の戦前、戦後を知る小野専一先生も平成25年11月23日93歳でその生涯を閉じられここにご冥福をお祈り申し上げる次第です。



### (3) 新生森町柔道協会

森町の柔道の歴史は前段のとおりとても古く盛衰を経た後、小野専一先生が亡くなる13年前の平成12年11月18日、先生をお迎えして森町柔道協会発足委員会が本町、ブラザ武蔵で開催されました。

森町には、ある先生が長万部高校から赴任されていて、その先生の名前は綾栄治先生です。

平成12年当時、高校生に柔道を教え続け38年。柔道界の重鎮である綾栄治先生が高校時代に活躍しても町内に柔道協会がないため、就職後は柔道をやめる選手が多く、かねてからの願いであった大人たちの練習の場と指導者育成を目的に協会設立を周囲に呼び掛けたのがきっかけで、森町柔道協会発足委員会が開催されたのです。

綾先生は長万部高に23年勤務後、森高に赴任し当時15年目。一貫して柔道部顧問を務め森高では8年連続14回、柔道部を全道大会に導いた指導者で、「慌てず、焦らず、あきらめず」をモットーに粘り強く指導、教え子から親しまれている先生でした。

その綾栄治先生が、選手が若鷺のように羽ばたいてほしいとの願いを込め、森鷺館（しんしゅうかん）と命名し、森町柔道協会発足委員会開催後の平成12年12月9日、本町ブラザ武蔵を会場に森町柔道協会「森鷺館」設立総会に引き続き、来賓を招いて設立祝賀会が盛大に挙行されここに森町柔道協会「森鷺館」が誕生したのです。

当時の会員は43名、練習は柔道スポーツ少年団と同じ火、金曜日の週二回。

午後7時から約1時間半程度で、早めに来た会員は昭和40年に結成された森町柔道スポーツ少年団の指導も手伝い、少年団選手の強化育成と、青少年の育成、指導者の育成に努めています。

平成27年8月5日には、第43回北海道中学校柔道大会（函館アリーナ）に於いて、森中学校柔道部が道南勢としては、40年ぶりに団体優勝を果たし全国大会へ出場できたのも指導した先生方の他に協会員のサポートがあったからこそだと思います。

## 現在の協会員名簿（平成27年10月16日現在会員数 31名）

役 職	氏 名
会 長	綾 栄 治
副 会 長	坂 本 元
理 事 長	山 口 敏 男
理 事	櫻 庭 邦 行
〃	吉 田 勝 利
〃	大 島 弘 嗣
監 事	松 居 順 一
〃	石 岡 悟
事 務 局 長	佐 山 寿 一

## 活動写真

設立総会の様子（綾 栄治 先生挨拶）



設立祝賀会の様子（坂本 元 先生挨拶）



## 協会員集合写真



前列 山口先生 坂本先生 綾先生 小野先生 和田先生 山田先生

### (4) 柔道協会重点・実践目標

#### 【1】重点目標

- ・森町柔道協会の内容充実
- ・一般愛好家の増員に努める

#### 【2】実践目標

- ・各種大会、講習会等への積極的参加
- ・青少年底辺の拡大と指導協力体制の充実

# サッカー協会



## 協会のあゆみ

サッカーの競技人口の増加と大人の運動の場の提供を目的に、平成9年春にサッカー愛好会を発足した。日々の練習や大会などを通じて、認知度を増やしていき、平成15年に森町体育協会に「フットサル協会」として加盟した。

今までの練習や大会の他にも町民運動会やそりレースなどに参加、協力し、森町内での認知を深め、その後平成21年に「サッカー協会」と団体名を変更し、現在に至る。

主な活動は毎週火曜日に町民体育館を使用し、高校生から大人まで、ゲームを楽しんでいます。他には年2回開催している町民大会、またコンサドーレ・エスポラーダカップ全道市町村サッカー・フットサルエンジョイ大会に参加しております。サッカーは近年、ワールドカップやJリーグ、なでしこジャパンの影響もあり、人気も出てきている。また室内で行うサッカー、フットサルが行われており、森町内では協会以外にもクラブやサークルが盛んに活動している。様々な世代や競技レベルがあるため、協会、クラブ、サークルが合同での活動難しいが、協力して、サッカー・フットサルを盛り上げていきたいと考えている。

現在の一番の課題は、町内のサッカー競技施設設備の不足と貧弱さである。現在サンビレッジ森横に芝グラウンドはあるが、広さが足りないため大会を開くことができない。そのためサッカー競技施設の充実実現が目標となっている。協会として施設の充実について活動をしていく必要がある。

今度の目標はJFAの理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」実現のために努力をし、屋内外でのサッカー活動場を増やすことで、多世代が気軽に楽しめるサッカー環境づくりを進め、サッカー人口の裾野を広げると共に、日本代表選手に選出される選手の育成を行いたい。サッカーを通して、様々な世代や立場で体力や競技の向上、また健康や交流を促進できるサッカー文化を目指し、会員と協会が一体となり努力していきたいと考えております。

## 現在の協会員名簿（平成27年4月1日現在）

役 職	氏 名
会 長	島山 喜式
副 会 長	橋達 瑞希・清水 寛行
理 事 長	吉田 満
理 事	川島 嘉将・福田 春樹・福地 公貴・須藤 克友
事 務 局 長	鈴木 実
事 務 局 次 長	柳谷 英樹
監 事	田代 聡・川本 悠佑
顧 問	木村 俊広

## 活動写真



サッカー協会員 集合写真



練習風景（森町民体育館）

# ミニバレー協会



## 協会のあゆみ

わずかに残る資料と諸先輩の記憶をたどり、当協会を振り返ってみると、森町で初めてミニバレーが行われるようになったのは、新たなスポーツとして森町体育指導員から、ルールや練習方法を最初に教わった、井藤陽子氏(現顧問)の普及活動によるものでした。

当初は、メンバーが2名しかおらず、バドミントン協会や卓球協会などの他の協会からの応援をもらって他町の大会に出場していました。

しかしながら、次第に仲間が増え始め、町内でミニバレー大会が行われるまでになり、平成9年に森町ミニバレー愛好会が設立しました。愛好会として活動が始まった当時は、森町に数多くの愛好会や協会があり、練習コートの確保がとても難しく大変苦労したようです。

また、平成13年11月18日に札幌で行われた第13回ジャパン大会に出場しました。全国から強豪チームが出そろう中、男子の部で3位初入賞を果たし、これが大きな大会での初入賞となり、現在も語り継がれています。

その後、会員も増え始め、他管内の大会に出場した際に、ルールの違いを指摘されることが度々あり、正式なルールでミニバレーを普及させたいという思いから、全日本ミニバレー協会B級公認審判員の取得に取り組みました。その後、会員が50名を超えた頃の平成17年に森町体育協会へ「森町ミニバレー協会」として加盟しました。

近年では、20代から70代後半と幅広い年代の会員がおります。ここまで森町ミニバレー協会が存続出来ている理由として、森町にミニバレーを普及させ、会員の誰もが“母さん”と慕う井藤陽子氏の存在は計り知れません。平成15年1月18日に開催された全日本ミニバレー協会「ミニバレー誕生30周年記念式典」においては、これまでの普及活動などの功績を讃えられ、地域功労賞を受賞しております。年に1度「井藤杯」と言う井藤氏本人が主催する大会が開催されます。会員だけが参加でき、チームはくじ引きで決める大会です。



会員みんなが「井藤杯は出たい!」「母さんの大会だからね!」と楽しみにしている大会です。毎回、参加人数は多く、さらに景品も豪華です。お昼には参加者が腕ふるった料理を持ち寄り、バイキング形式による昼食で、皆がワイワイと楽しく過ごせるように配慮されています。当協会は、「輪」を大切に、「出会い・ふれあい・分かち合い」の精神を大切に今後も活動が続けていきたいと思っています。



## ミニバレー協会の特徴 近年の活躍

当協会は、火曜日と金曜日の週2回「サンビレッジ森」にて練習をしています。年間の大会数は、町内の大会は6回、他管内の大会には約15試合に出場しています。

また、毎年1月に開催される読売杯北海道155ミニバレー大会が開催されますが、この大会へは、平成21年度より毎年バスを貸し切り、4~5チームほど約20名の選手が一同に移動します。このように貸し切りバスで移動するという団体はなく、155大会では“名物”となっています。

また、大会は2日間にわたり開催され1日目の夜は懇親会が行われますが、森町は全員で参加し参加人数の多さもまた“名物”と話題を呼んでいます。

ここ3~4年では井藤陽子氏が率いる『かあさんず』が220以上（チームメンバーの年齢を合わせた数字）の部で優勝や準優勝等の好成績を収めており、優勝した際には新聞にも取り上げられるほど盛大なものとなりました。

現在、約50名の会員が在籍しておりますが、平成25年3月に森町においてB級審判認定講習会が行われ、当協会からは15名、近隣からも約25名の参加がありB級審判員の資格を取得しました。

近年、主に七飯町・南茅部町・登別市などへの遠征に行く機会が多くありますが、他管内の中には会員数の減少により大会の開催が難しくなっているところがあります。他スポーツに比べ競技人口は少なく、まだまだ知名度も低い当協会ではありますが、これからも協会が存続していきけるよう、協会員一丸となってミニバレーを広めていきたいと考えております。



## 現在の協会員名簿（平成27年4月1日現在）

役職	氏名
顧問	井藤陽子
会長	菊池一夫
副会長	木村希代子 / 矢部知幸
事務局長	海谷広美
事務局	廣中聖子 / 三好知代
会計	佐藤明子 / 倉地陽子
監査	赤坂明希子 / 川崎泰子
幹事	福地公貴
体協役員 理事	佐藤純也 / 菅公一

# ゲートボール協会



## 協会の沿革

- ・昭和22年北海道在住の鈴木栄治氏（故人）が、考案したゲートボールは、瞬く間に全国に普及されて、国民的近代軽スポーツとして盛んになってきた。
- ・昭和55年後期、森町にゲートボールらしい真似ごとを岡田一雄氏が、町内老人クラブに普及指導したのが基になった。
- ・昭和56年7月、正式に活動を始めたのは、清澄町の阿部恵三男氏の所有地を借用して、コート整地に精出してからだった。
- ・昭和56年8月恵山高原ホテルで開かれた日本ゲートボール協会の講習と、3級審判員試験に、三浦義光、岡田一雄、菊池 務、金見藤雄の四氏が参加、合格し、町内でゲートボール教室を開講、普及を始める。
- ・昭和56年9月森町ゲートボール愛好会が発足 初代会長 菊池 務、幹事長 岡田一雄、その他幹事若干名をおいて運営、推進に努めた。（会員26名）
- ・昭和58年2月森町ゲートボール協会が設立、発足した。会長 菊池 務、副会長 安井 正、事務局長 手繰義雄。
- ・昭和59年5月森町ゲートボール協会役員改選 会長 吉田光男、副会長 手繰義雄、岡田一雄、事務局長 大東 銀之助。
- ・昭和60年4月森町体育協会に加盟し承認される。森町ゲートボール旗を作製。
- ・昭和62年8月第4回定山溪温泉杯北海道ゲートボール大会で、森町Bチームが初優勝。
- ・昭和62年度森町ゲートボール協会の主な役員 会長 吉田光男、副会長 手繰義雄、崎野久一郎、事務局長 有田孝一（会員220名）
- ・昭和63年第20回道民スポーツ渡島夏季大会GB競技でBチームが優勝、Aチームが3位。
- ・昭和63年第39回森町桜まつり協賛ゲートボール大会で、上台町Bチームが見事優勝。
- ・昭和63年第4回北海道知事杯（明治・大正の部）で、森町Bチームが準優勝。
- ・平成元年第5回渡島町村対抗ゲートボール大会で、森町Aチームが3位。
- ・平成2年第22回道民スポーツ渡島夏季大会ゲートボール競技開催。森町から2チーム出場し、Bチーム優勝、Aチームが準優勝の立派な成績を残した。
- ・平成2年第6回渡島町村対抗GB大会で、町より2チームが出場し、Aチームが優勝。
- ・平成2年度～主な役員 会長 小山忠雄、副会長 三瓶惣治、品田与三郎、事務局長 鈴木眞一。
- ・平成3年第42回森町桜まつり協賛ゲートボール大会で森町内浦チームが準優勝。
- ・平成3年第23回道民スポーツ渡島夏季大会ゲートボール競技で、森Aチームが3位。
- ・平成3年は、当協会創立10周年になるので、記念事業の1つとして第1回森町少年少女GB大会と高齢者（70歳以上）のGB大会を開催し、和やかに楽しく有意義に終了した。
- ・平成3年第7回渡島町村対抗ゲートボール大会が砂原町で開催。森町Aチームが3位。
- ・平成4年当協会創立10周年記念事業として、総会時に前会長 菊池 務氏、吉田光雄氏と80歳以上の8名に感謝状と記念品を贈呈、また当協会の「あゆみ」を編集し会員に配布。
- ・平成4年第24回道民スポーツ渡島夏季大会ゲートボール競技で、森町Aチームが3位。

- ・平成4年第8回渡島町村対抗ゲートボール大会で、森町Aチームが見事優勝した。
- ・平成4年森町社会福祉協議会法人化10周年記念式典において、当協会へ感謝状が贈呈された。(当協会は、毎年2月中旬冬季室内チャリティー・ゲートボール大会を開催し、会員からの募金を森町社会福祉協議会へ寄付している)

#### 平成5年度の活動内容

- ・第3回砂原ライオンズ旗争奪ゲートボール大会で、森青葉チームが優勝。
- ・渡島老人クラブ連合会GB大会開催。準備運営に当協会が協力。森町Cチームが準優勝。
- ・第9回渡島町村対抗ゲートボール大会(知内町)で、森町Aチームが準優勝。

#### 平成6年度の活動内容

- ・第10回渡島町村対抗ゲートボール大会(福島町)で、森町Aチームが4位。
- ・第13回グリーンピア大沼ゲートボール大会で、青葉チームが見事に優勝。
- ・第8回東日本グリーンピア・カップゲートボール大会(岩手県)で、3位に入賞。

#### 平成7年度の活動内容

- ・第46回森町桜まつり協賛ゲートボール大会で、森青葉チームが、惜しくも準優勝。
- ・第11回渡島町村対抗ゲートボール大会(上磯町)で、森町Bチームが見事優勝。
- ・第14回グリーンピア大沼ゲートボール大会で、森青葉チームが準優勝し、第7回東日本グリーンピア・カップのゲートボール大会(宮城県グリーンピア岩沼)に出場した。

#### 平成8年度の活動内容

- ・第47回森町桜まつり協賛ゲートボール大会で、森さくらチームが見事優勝。
- ・第28回道民スポーツ渡島夏季大会ゲートボール競技が、砂原町で開催。
- ・第12回渡島町村対抗ゲートボール大会で、森Aチームが優勝し見事2連覇を飾った。

#### 平成9年度の活動内容

- ・渡島信用金庫のご配慮により、森町さくらまつり期間中に第1回渡島信用金庫理事長杯ゲートボール大会を、当協会主管により開催し本部役員・審判等全面的に協力した。

※地元森町からも4チーム出場したが、入賞できなかった。

- ・創始者杯道新旗争奪第13回北海道ゲートボール大会が、グリーンピア大沼で開催され、森オニウシチームが出場。準決勝で惜敗し敗戦賞を受けた。

#### ■平成9年度の主な役員

会長 小山忠雄 副会長 三瓶惣治、品田与三郎 事務局長 鈴木眞一 次長 長谷川福広  
 会計 川崎 明 監事 丸山重晴、房田茂美 総務部長 崎野久四郎 競技部長 安藤富雄  
 審判部長 小杉 孝 広報普及部長 佐藤 滋 (会員 74名)

- ・第13回森町長杯三世代交流ゲートボール大会

※昭和60年から毎年5月初旬に開催。優勝 森川いびりチーム、2位 三葉チーム

#### 平成10年度以降の活動内容(主なもの)

- ・昭和56年森町ゲートボール協会発足以来、毎年2月中旬に室内チャリティー・ゲートボール大会を開催し、会員の募金を森町社会福祉協議会へ寄付している。
- ・平成12年5月11日第51回森町桜祭り協賛ゲートボール大会 森町青葉ヶ丘公園グラウンドで開催(28チーム参加 札幌、室蘭、今金、函館、江差、長万部、八雲、厚沢部、上磯、大野、七飯、北後山等)
- ・平成15年5月8日第54回森町桜祭り協賛ゲートボール大会に24チームが参加し、七飯アカシヤチームが優勝。

## 10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

- ・平成17年5月5日第21回森町長杯三世交代交流G B協会で、ときわチームが優勝。
- ・平成17年5月11日第56回森町桜まつり協賛G B大会で、七飯アカシヤチーム優勝。
- ・平成17年6月9日第21回渡島町村対抗G B大会（知内町）森Bチーム準々決勝で敗退。
- ・平成17年7月3日第5回渡島スポーツ・フェスタG B競技。森Bチームが第3位。
- ・平成17年7月7日渡島地区老人クラブ連合会G B大会。森町A、B共予選で敗退。
- ・平成17年7月16日第16回読売新聞社杯G B大会。オニウシAチームが優勝
- ・平成17年8月21日第19回防火ゲートボール大会。赤井川チームが優勝。
- ・平成17年9月16日第24回森町民杯ゲートボール大会。はまなすチームが優勝。
- ・平成17年10月16日第23回ゲートボール協会長杯G B大会。オニウシAチームが優勝。
- ・平成18年2月11日チャリティーゲートボール大会。赤井川チームが優勝。
- ・平成18年5月12日第57回森桜まつり協賛ゲートボール開催。長万部Bチームが優勝。
- ・平成18年6月18日第24回北海道新聞社杯争奪森町民ゲートボール大会が、森町ゲートボール場で開催され、オニウシチームが優勝。
- ・平成19年5月5日第23回森町長杯三世交代交流ゲートボール大会開催。
- ・平成19年5月10日第58回森桜祭り協賛ゲートボール大会を青葉ヶ丘グラウンドで開催。
- ・平成19年5月 第11回渡島信用金庫理事杯市町村対抗ゲートボール大会開催。
- ・平成19年、平成20年、平成21年、平成22年 毎年、森町青少年会館でチャリティー・ゲートボール大会を開催し募金を森町社会福祉協議会（愛情銀行）へ寄付している。
- ・平成19年度渡島地区老人クラブ連合会ゲートボール大会が知内町で開催され、森町Aチーム（主将 吉田直弘、選手 鈴木真一、真鍋百合子、照井チヤイ、浜田 恭、花田キクエ、小泉一三雄）が、見事優勝した。
- ・平成20年5月10日第12回渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会。
- ・平成21年5月9日第13回渡島信用金庫理事杯市町村対抗ゲートボール大会。
- ・平成22年5月8日第14回渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会開催。事務局長として3名が手伝う。ボーナス戦で森町Bチームが1位。
- ・平成22年6月20日第28回北海道新聞社杯ゲートボール大会。森町Cチームが優勝。
- ・平成22年9月5日森町民大運動会に4名が役員として手伝った。〈23年チャリティー 募金 20,000円〉
- ・平成23年5月14日第15回渡島信用金庫理事杯市町村対抗ゲートボール大会。
- ・平成24年3月森町ゲートボール協会の総会で、会長が岩井秀次郎 決まる。〈24年チャリティー募金 16,000円〉
- ・平成24年5月12日第16回渡島信用金庫理事杯市町村対抗ゲートボール大会。
- ・平成24年6月13日渡島スポーツフェス・ゲートボール大会。森チームが3位に入賞。
- ・平成25年2月21日チャリティー・ゲートボール大会を開催し、募金を森町社会福祉協議会（愛情銀行）へ寄付する。〈18,000円〉
- ・平成25年3月14日森町ゲートボール協会総会で、会長補選の結果 鈴木 真一 氏に決まる。
- ・平成25年5月18日第17回渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会。
- ・平成25年6月19日渡島スポーツフェス・ゲートボール大会。森チームは予選で敗退。
- ・平成26年2月20日チャリティー・ゲートボール大会を開催し、募金16,500円を森町社会福祉協議会（愛情銀行）へ寄付する。
- ・平成26年5月10日第18回渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会。

- ・平成27年2月18日チャリティー・ゲートボール大会を開催し、募金10,000円を森町社会福祉協議会（愛情銀行）へ寄付する。
- ・平成27年5月9日第19回渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会。
  - ※毎年、大会の前日又は前々日にコート作り（8コート）を全会員が出て整備している。
  - ※大会審判部長に、元森町在中 元七飯町居住の 金澤 昭八 氏 に依頼している。

## その他の特記事項

- ・永年、会長を務め、会の運営・発展に貢献努力された故 小山 忠雄 氏と故 崎野 久四郎 氏、会員の  
中軸となって、努力・寄与された故 吉田 直弘 氏 故 真鍋 百合子 さんにも敬意を表します。
- ・年々、会員の高齢化と新規加入者がいない為、会員数が減少している。

## 現在の協会員名簿（平成27年10月16日現在）

会長兼事務局長	鈴木 真一				
会 員（代議員）	房田 茂美	小坂 ユミ			
会 員	高村トシ子	吉田 英子	中野 英美子	池田 緑	



渡島信用金庫理事長杯市町村対抗ゲートボール大会の様子

# バスケットボール協会



## 協会のあゆみ

わずかに残る資料と諸先輩の記憶をたどり、当協会を振り返ってみると、昭和22年12月12日、町内で行われた籠球普及大会をきっかけとし、愛好者が増え始め、昭和32年頃に高村忠之氏を中心とした数名により、バスケットボール協会の基盤ができた。

当時はバレーボールと共に籠球愛好者として、小学校の体育館を使い、数名の愛好者が集まり、ゴムボールで練習したものであった。

その後、会員が増え始め助成金と会費により遠征やボール購入などをし、本格的なものとなっていった。

昭和41年には、国体一般函館地区予選で優勝し、森高校バスケットボール部と共に全道大会出場を果たしている。

昭和42年に入ると、バレーボールと分かれて活動するようになり、昭和40年代後半には愛好会から、森町バスケットボール協会となり、それまではなかった女子も組織化されました。

森町体育協会25周年（昭和57年）には、記念事業として、森町民体育館において、第5回渡島町村対抗バスケットボール大会を開催、当チームを含め、近隣6チームが参加し、盛大なものとなった。

昭和60年になると、高卒の現役選手が数名加入し、クラブチームとしての実力もつき、函館地区バスケットボール協会に加盟、それまでは町村対抗程度だった対外試合も増え始めた。また、この年、協会始まって以来の大事業に時間マラソンバスケットボール大会を開催、町民多数が参加し、北海道新聞にも取り上げられるほど盛大なものとなった。

翌年、フランス国籍のクレマン・モンデレー氏の加入により、チームがさらに力をつけ、2部優勝を果たし、念願の1部へ昇格した。

その後、2期にわたり1部を死守、この頃函館地区の優秀選手に数名選ばれたり、女子も函館地区バスケットボール協会に加盟したり、また、函館リーグを森町民体育館で行うなど、盛り上がりを見せていた。

後に会員の顔ぶれもあまり変わらず、選手の高齢化が進んできたが、5部制となった函館リーグの2部をなんとか保っていた。

その後、毎年、渡島町村大会やクラブ選手権、函館リーグ戦等の大会に出場し、積極的な活動をしていたが、女子は平成5年、7年と2度函館地区での大会に出場しましたが、協会員も減り、大会に出場できなくなっていった。

男子の方は、若干の新会員が入り、なんとか欠場することなく、5部制の函館リーグでは2部と3部を繰り返していた。

一方普及活動においては、年2回の町民大会、初の3on3の開催など、底辺の拡大を図っていた。さらには、スポーツ少年団の指導、各種大会での手伝い等にも積極的に参加していた。

平成9年度の中体連において、森中男子バスケットボール部が念願の全道大会出場を果たしている。

平成11年度にはEリーグまで降格していましたが、その後、徐々に昇格を果たしていく。

平成14年度には、毎週水曜日の練習にも5人前後しか集まらない状況でした。同年4月就職のため帰町した 葛西 十夢 が協会員に加わり、練習方法等について再考し、主力であった 西畑 弘行、柴田



匡啓、今野 雅丈 が少人数の中、地味な練習をコツコツと行い、Cリーグを維持していくこととなる。

平成16年度には 葛西 が一般の部の函館地区年間優秀選手に選出、青函交流大会、国民体育大会北海道予選会函館選抜チームへ選出されていた。この頃から、函館地区バスケットボール協会役員や函館地区チームとの交流も増えていき、函館一般リーグや各種大会を森町民体育館やサンビレッジ森にて開催していただくよう依頼し、現在も少人数の当協会が大会へ参加しやすくしてもらい配慮をいただいている。

## 10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

平成17年4月には森町と砂原町が新設合併となりましたが、旧砂原町バスケットボール協会の活動は休止していたため、特に合併に際して苦勞することはありませんでした。

この頃はBリーグを維持していた時期でありましたが、大会に参加できる選手が足りず、苦肉の策で役場野球部から選手を借りて大会へ参加するなど、廃部の危機に直面していた時期でもありました。

また、同時期には引退していった選手も多く、これまでエースとして協会を引っ張ってきた 高山 健太郎 は、ミニバスケットボール少年団の指導者を当協会元会長でもある 山田 俊明 氏から引き継ぐため引退、島津 久憲、青山 真之 は転勤を機に引退、豊岡 晃功、大林 勝、は高齢により引退、竹内 謙太 は度重なる怪我のため引退していきました。

平成20年には、数十年ぶりにAリーグに昇格しましたが、やはりAリーグを維持するのは厳しく翌年再びBリーグへ降格することとなりました。

平成24年頃から、森中学校や森高校との合同練習や、中・高校生を連れて町外チームへの練習参加などを積み重ねてきた結果、森高校からの協会員加入、町外チームからの加入が徐々に増えていき、毎週の練習時には20人を超えることもあり賑わいを見せていました。

平成25年には、毎週月曜日に森中学校体育館を使用できることとなり、これまで実施できていなかった週2回の練習を開始したが、セキュリティシステムを導入したことで、管理者不在となり体育館を使用できなくなりました。

平成27年には7年ぶりにAリーグに昇格（A～Fの6部制で1リーグ6チーム）しましたが、1勝5敗でAリーグ残留はできませんでした。

また、協会員とともに練習をしてきた中学生が全道大会出場。また、同メンバーがほぼ森高校へ進学し函館有斗高校に敗れたものの、現在協会員である 高田 信 を中心に、高校総体、ウィンターカップ、新人大会の全道大会へ出場を果たしている。

高田 は高校2年、3年にも国民体育大会北海道予選の函館選抜チームに選出、さらには平成24年度の高校生部門函館地区年間優秀選手に選出される活躍をみせていた。

森町ミニバスケットボール少年団においては、平成27年6月に開催された函館地区ミニバスケットボール春季大会をみごと初優勝し、第36回北海道ミニバスケットボール夏季交歓大会へ出場を果たしている。この大会では、元協会員である 竹内 謙太 の息子（土道くん）が大活躍するなど注目を浴びているため、今後の活躍を非常に期待するところです。

## 森フォレストーズメンバー（平成27年度）

氏名	No.	身長/体重	ポジション	年齢	出身校
本間 雅 敬	2	171cm/68kg	SG	26	森高等学校
渡辺 健 太	3	162cm/54kg	PG	26	森高等学校
葛西 十 夢	5	183cm/78kg	CF	36	東海大四高校－酪農学園大学
柴田 匡 啓	6	193cm/82kg	CF	41	森高等学校
能登谷 慶 仁	7	165cm/58kg	PG	26	芝浦工大中学高等学校－東洋大学
石黒 雄 士	9	171cm/72kg	SF	27	森高等学校
川口 冬 馬	10	172cm/60kg	F	30	苫小牧南高校
櫻山 治 輝	11	180cm/72kg	F	36	東海大四高校－札幌大学
今野 雅 丈	12	183cm/85kg	C	34	森高等学校
佐藤 翔	14	170cm/58kg	SF	26	八雲高等学校
川村 慶 輔	15	161cm/54kg	SG	21	函館水産高校
高田 信	17	169cm/70kg	SF	21	森高等学校
山本 勝 男	22	160cm/60kg	PG	35	森高等学校
西川 祐一郎	25	178cm/72kg	CF	34	函館有斗高校
加我 和 也	40	185cm/84kg	C	37	東海大四高校
能登谷 綾 子	-	162cm	F	30	三浦学園－花田学園
高橋 朋 代	-	158cm	F	24	函館白百合高校－函館教育大
岸田 宜 子	-	152cm	F	23	遺愛高校－旭川医科大学



We need players for a basketball team.

Every Thursday 7:15 p.m.



**Foresters**



## 最近の大会結果

平成26年度

- ・函館地区一般リーグ（Bリーグ4勝1引き分け）
- ・渡島スポーツレクリエーション大会（優勝 決勝戦 森町90－84 知内町）
- ・道南選手権大会（1回戦敗退 函館SUNS 87－79 森フォレストーズ）
- ・函館クラブオープン大会（ミディアム優勝 決定戦 森フォレストーズ 77－64 HOOP）

平成27年度

- ・一般春季大会（1回戦敗退 白楊クラブ 81-57 森フォレストスターズ）
- ・一般リーグ（Aリーグ1勝4敗）

## 活動写真

新ユニフォーム（白）



八雲バス協 中・高校生と練習



ゲーム時（タイムアウト中）



中・高・大学生と練習



## 今後の目標

現在、協会員数が回復したものの練習参加者数はまだまだ安定していないため、さらなる協会員の加入が必要となっています。また、協会内の事務、審判などの役割の引継ぎができずにいるため、早急な対応が必要となっています。

また、協会員の補強・増員を図り、クラブ選手権、クラブカップ、道民大会への大会参加を目標としており、町民バスケットボール大会を継続して開催するなど、普及活動にも力を入れ底辺拡大を実施していきたいと思います。

なお、森町バスケットボール少年団、森中学校、砂原中学校、森高校、森町バスケットボール協会との縦の連携をより一層強化し、60年以上の歴史を持つ森町バスケットボール協会の存続、今後の有望選手輩出、そして、森町におけるバスケットボール競技の発展に繋げていきたいと考えます。

# ペタンク協会



## ペタンクとは

ペタンクは、1910年に南フランスで生まれたボールスポーツで、プロバンスルという助走をつけて投球するゲームが、全員が同じ場所から投球するようになりピエタンケ（両足をそろえるの意味）ペタンクになったといわれています。ヨーロッパを中心に普及しているスポーツでフランスでは、500万人以上の人が、プレーを楽しんでいます。

ペタンクは、チーム対抗のボールゲームで、木製の小さな目標物（ビュット）に金属製のボールを投げて、どれだけ味方のボールを多く近づけるかを競う実に単純なゲームです。ゲームは両チームが6球ずつ投げ終わったら1メヌ（セット）が終了したことになり、得点を計算します。ビュットに相手チームより自分のボールが近づいていれば、その個数が得点となり、11点または13点を取ったチームが勝ちとなります。

ゲームに、勝つためには、技術的に緻密で、正確さとその成功率の高さを必要として作戦・戦術も大切に陸上のカーリングと呼ばれる所以です。緻密な戦術の下、相手ボールやビュットを直接弾き飛ばす高度な技術を駆使して「競技スポーツ」として取り組むチームが多くなってきています。

平成28年には全国のペタンク愛好会の組織が統一され、日本ペタンク・ボール連盟が発足するとともに、平成27年には日本体育協会にも加盟が認められました。

## 協会のあゆみ

日本には、ペタンクを最初に日本に、持ち込んだのが「伊丹十三」である。それ以降本格的に普及され始めました。その後、昭和58年に日本ペタンク協会に名称が変更になり、年々競技人口も増え、今では20万人以上の競技人口と言われてます。

北海道にペタンクを紹介したのは、昭和58年6月池田町で、フランスにワイン研修に行った町職員が持ち帰ったのがはじまりです。

森町においては昭和62年7月函館市日仏協会五島軒の呼びかけにより五稜郭公園で札幌、函館、森50名が参加し、日本ペタンク協会常任理事北林氏の指導でペタンクを初めて体験する。このことにより鈴木喜代松、菊池務が発起人となり「森ペタンク愛好会」が設立され、そののち、昭和63年6月に、日本ペタンク協会に会員登録をする。また、9月には北海道池田町で開催された第3回日本ペタンク選手権大会に3名が参加して対外活動も始まりました。

平成元年8月には、同好の人を集めて、「森ペタンク協会」が設立され、初代会長に菊池務氏が選出され、平成9年に2代目会長柳田晃氏、平成16年に3代目会長に本多堅勇氏が就任して、森町ペタンク協会普及と発展に寄与しています。

## 森ペタンク協会のあゆみ

設立されたペタンク協会は、毎日の練習以外にも、①対外試合出場、②ペタンク普及指導員試験の受験など活発に活動して、平成6年度までに21名が合格して、これにより森町内だけでなく、近隣町村の八雲町や旧砂原町へも普及活動を行い、また、近年では函館市の会員までも指導し、また、森高校生にもペタンクを選択授業として毎年指導しており、道南ペタンクの核心的存在として活動を行ってきました。

森町ペタンク協会は、生涯スポーツとしてペタンクの普及及び振興を図り町民の心身の健康づくり寄与することを目的として活動しています。設立当初は、早朝練習を行っていましたが、森町砂原町合併後は午前9時から12時までを練習時間としています。また、平成3年にはビニールハウスを会員の労働奉仕により完成し、これにより、冬期間を通して通年で土の上で練習することが可能となりました。こうして、森町内での各種大会が開催され、ペタンクの普及と技術の向上が図られました。同時に北海道の各種大会においても好成績を収めることができました。特に、毎年、全道高齢者大会では、好成績を収め、4年連続で北海道代表として、ねんりんピックに参加しています。また、平成7年には全国で3位に入賞しています。現在は、会員の若返りを図りつつ、35名の会員で活動しています。

## 年間の活動内容

### 1 練習

盆、正月を除いて年間を通じて毎日練習

#### ① 夏期間（5月～10月）

サンビレッジコート（9時～12時）

#### ② 冬期間（11月～4月）

ハウスドームコート（9時～12時）

### 2 森町内の大会

① 月例会（1月～12月）各12回 協会杯 森町ネイバル所長杯等

② 北海道オープンペタンク森大会（26回開催）

③ ネイバル森交流大会（主催 北海道立青少年体験活動支援施設ネイバル森）

### 3 対外試合の参加

① 北海道知事杯ペタンク大会（札幌）

② 全道高齢者ペタンク大会（安平）

③ ホスピタリティー安平ペタンク大会（安平）

④ 北海道オホーツクオープンペタンク大会（北見）

⑤ 日本選手権北海道予選（札幌）

⑥ 北の大地のペタンク大会、北の大地ダブルス選手権大会（美幌）

⑦ 太平洋ペタンクむかわ大会（むかわ）

⑧ J P B F カップ北海道ペタンク大会（池田）

⑨ サフォークランド土別ペタンク大会（土別）

⑩ ベテランペタンク大会（池田）

※以上の上記大会に参加して好成績をあげています。

#### 4 全国大会出場（平成17年以降）

##### ① レディース大会

平成17年 伍楼・桐部

平成19年 中島・桐部

##### ② 全国健康福祉祭（ねんりんピック）

平成21年 本多弘・中島・市瀬・清水

### 森町ペタンク協会会員名簿

役	職	氏名
相談	役	阿部 眞次
会	長	本多 堅勇
副	会 長	菊池 務
副	会 長	吉田 光博
事	務 局 長	吉田 好克
事	務 局	小熊 孝一
事	務 局	安保 千代江
理	事	成田 清
理	事	田中 尚史
理	事	本多 弘子
理	事	阿部 珠實
会	計	市瀬 郁子
監	事	梶谷 和子

### 活動写真



森ペタンク協会員





試合風景



森高校生の授業

# バドミントン協会



## 協会のあゆみ

森町で本格的にバドミントン競技が始まったのは、昭和45年に森町教育委員会職員に採用された長崎一英氏（現在、バドミントン少年団責任者）が学生時代に活躍されていたバドミントンを森町にも普及させるため教室が開かれたのがきっかけで、森町にもバドミントンが競技スポーツとして普及しはじめました。

その後、愛好者が増えはじめ、長崎一英氏と教室受講者が中心となり愛好会が結成され、長崎氏の指導のもとで会員たちも、めきめき上達し、翌年には、対外試合が出来るまで実力をつけました。

そして、昭和46年5月に、森町バドミントン協会が設立され活動を開始されました。

その頃から渡島管内の各町村でもバドミントンが普及しはじめ、昭和48年には町村対抗、翌昭和49年には道民スポーツ渡島大会にもバドミントン競技が取り入れられました。

渡島町村対抗においては、第1回大会から3年連続優勝し、道民スポーツ渡島大会でも、予選を勝ち抜き出場権を得て、男女そろって出場し、第18回大会では、女子が優勝し、男子も3位に入賞し、その他の大会でも上位入賞が数多くあり輝かしい成績を残しております。

また、バドミントン愛好者の増加とともに、町民バドミントン大会が開催されるようになり、1月の建設協会長杯、6月の森漁協杯のほか、協会主催による年間2回の職域対抗が開催され、職場やサークルなど毎回35チーム以上参加があり盛大に開催されておりました。

## 合併から10年のあゆみ

毎年、積極的に参加しておりましたが、渡島近隣町対抗ほか各種大会も転勤による会員の減少や若年層の加入が少なく、チーム編成が出来ないため、現在は、男女とも不参加となっております。

町民バドミントン大会においては、1月の建設協会長杯、6月の森漁協杯が廃止され、現在は、協会主催で年間5回開催し、職場やサークル等から毎回30チーム以上の参加があり3部制を設定し盛大に開催されていたが、ここ数年は参加チームが減少している。

また、普及活動については、毎週水曜日と土曜日に、午後5時から町民体育館で、長崎一英氏を中心にバドミントン少年団の指導が行われており、少年団の育成と底辺の拡大を図っており数名の少年団員が、全国大会や全道大会に出場している。

その他、競技活動以外では、町体育協会主催の事業や、その他様々な事業に積極的に協力しております。また、春の観桜会、年末年始の忘年会、新年会をはじめ、定期的に懇親会を開き、会員相互の親睦を図っております。

## 現在の協会員名簿

役 職	氏 名
会 長	阿部 崇史
副 会 長	能戸 光義・木村 孝
体 協 理 事	中澤 雅彦
体 協 代 議 員	山口 繁夫・阿部 崇史
事 務 局 長	中澤 雅彦
会 計	水木 悦子
相 談 役	長崎 一英
協 会 員	坂元 哲夫・工藤 孝二・坂田 博・木村 文雄 山本 稔・佐々木 晴之

現在の協会員



町民大会の様子



## 今後の目標

現在は、会員の高齢化と共に、ここ数年新会員の加入が少なく練習参加者が不安定なため、今後は、バドミントン経験者の加入活動と若年層の加入に期待し、協会の強化と各種対外試合に参加できるよう底上げを図って行きたいと思っております。

町民バドミントン大会においても、参加チームもここ数年減少傾向にあるため、職場やサークルのほか、バドミントン少年団、森中学校、森高校に1チームでも多くの参加を要請し、大会の充実と競技人口の増加に期待し、少しでも多くの町民にバドミントンを楽しんで頂けるよう、協会員一同頑張りたいと思っております。

# 野球協会



## 協会のあゆみ

まず、砂原地区、森地区の協会合併前のあゆみについて、それぞれ紹介したいと思います。

### ○砂原地区

はじめに、砂原町体育協会創立40周年記念誌（平成15年発刊）より抜粋、（以下、引用）

#### 《沿革》

野球協会は、昭和38年に、砂原村体育協会創立と時を同じくして、旗上げしました。当時、名称は、砂原野球連合会と呼ばれており、チーム編成も各町内会単位というのがほとんどでした。野球大会は、部落対抗と呼ばれ、さながら小学校の運動会のような盛り上がりでした。まして、道南町村対抗大会ともなりますと、選手のみならず、応援する町民の方々も、大変な熱の入れ様でした。その後、昭和45年の町制施行という、町内気運の盛り上がりもあり、町内各事業所等の充実により、それまでの町内会単位から、事業所又はクラブチームへとチーム編成も変わっていきました。昭和48年には名称を砂原町野球協会と改め、チーム数も増加していきました。50年代前半には、最大14チームにも及び、試合も三会場を使用しても、決勝が日没コールドという時もありました。平成になり、それまでの野球人口の高齢化もあり、チーム数も減少し、町内での大会の盛り上がりも薄らぐようになりましたが、（まだまだ）という人もおり、谷内田組ファイターズが中心となり、各種予選大会に出場する様になり、好成績を残しております。又、協会の代表である、オール砂原は、姉妹町である青森県磐田町との交流大会や、渡島町村対抗大会等に参加し、活躍しております。

#### 《近況、展望》

現在では、さらにチーム数が減少し、町内での大会開催もままならず、隣町の森町ナイターリーグで野球を楽しんでおります。しかし、町内若手グループによるクラブチームも、徐々に増えつつあります。少数チームながらも、町内大会を開催し、野球を楽しみにしながらも切磋琢磨し、野球熱を盛り上げたいと思う。（以上、引用終了）

### ○森地区

次に、旧森町体育協会創立40周年記念誌（平成9年発刊）から抜粋。（以下、引用）

昭和23年に「森町軟式野球協会」が発足し、これをもって森町野球協会の礎としている。昭和31年には「森町野球協会」となった。森町の野球沿革史は、昭和6年頃には、鉄道チームなどが硬式野球をしていたという。昭和10年頃になると劇場チームなどの軟式チームにより、職域対抗試合が行われていた。時には公園グラウンドに観衆三千名余りが詰めかけるといったこともあった。昭和17年には「オール森」が結成されるなど、いよいよ飛躍の時を迎えようとしていたが、戦争激化のため、空白期間を送らなければならなかった。終戦後、昭和22年には職域大会も再開され、再び躍動期を迎えた。昭和20年代から30年代の職域大会は15チーム程度により行われ、中には各職域の地区代表対抗大会で全道制覇を果たすようなチームも登場するようになり、昭和29年には「森電報電話局」が全国大会に駒を進めている。昭和40年代から50年代前半にかけて、協会加盟チームは20チーム程度となり、職域試合が月例会として定着してくる。昭和53年には、森町開基百年記念事業として待望の森町民野球場が完成し、町内はもとより近隣町をも含めた中核球場として、現在も活用されている。この年「森町役場」が高松宮賜杯全道大会へ出場、昭和50年代後半にかけて「よしのヤクラブ」がニッサングリーンカッ

プ全道大会で準優勝2回と活躍している。また、「尾白内クラブ」が、昭和60年に東日本軟式野球全道大会準優勝、昭和62年に高松宮賜杯全道大会へそれぞれ出場し、復活久しかった「オール森」は、昭和63年には、国体全道大会へ、平成2年に天皇賜杯全道大会へそれぞれ出場を果たしている。しかし、この間、加盟チームは減少の一途をたどるようになる。平成5年には青葉ヶ丘公園グラウンドにナイター照明施設が設置され、野球環境は一層整備され、平成6年からはナイターリーグ戦の開催など、新たな取り組みも行われたにもかかわらず、平成9年は、わずか7チームの加盟と往時の三分の一程度まで落ち込んでいる。単位職場の減少や他スポーツへの転向、指向の変化などが原因と考えられるが、町内の野球関係団体とも連携を図りながら、今後の再興を期し、一層努力して行かなければならないと考えている。(以上、引用終了)

次に、平成6年から平成16年までの主な活動、成績を拾ってみる。ナイターリーグは、平成6年からスタートしたが、平成8年からは砂原町チームからも参加があり、平成13年には10チーム(うち砂原地区2チーム)となったが、平成16年には7チームに減少した。平成6年には「森名球会」が、国体全道初出場を果たし、1回戦を突破、平成9年にも国体全道大会へ2度目の出場(1回戦突破)となった。平成11年には「森名球会」が、高松宮賜杯全道大会へ出場、通算3回目の全道大会出場となった。平成12年には「トップガン」が、高松宮賜杯全道大会へ出場し、準優勝を果たしている。「オール森」は、平成13年には、天皇賜杯北海道大会と国体全道大会(ベスト4)の2大会出場を成し遂げ、平成15年にも国体全道大会で再びベスト4となっている。

## 10年のあゆみ(平成17年～現在まで)

協会事業の概要について、以下、総会資料から抜粋、紹介する。

《平成17年》

- 加盟チーム(6) ビッグウェーブ 森町役場 フィッシャーズ トップガン J A渡島森 むさし
- 6月職域(ナイター)大会 4チーム参加 優勝;役場 2位;トップガン
- ナイターリーグ 7チーム参加 優勝;J A渡島森 2位;トップガン 3位;谷内田組
- 町内各種大会への審判員の派遣 少年団、中学校等の6大会へ 延べ44名 派遣

《平成18年》

- 加盟チーム(6) 谷内田組 森町役場 フィッシャーズ トップガン J A渡島森 むさし
- 5月職域(ナイター)大会 4チーム参加 優勝;森町役場 2位;谷内田組
- ナイターリーグ 6チーム参加 優勝;谷内田組 2位;トップガン 3位;J A渡島森
- 町内各種大会への審判員の派遣 少年団、中学校等の3大会へ 延べ49名 派遣
- その他 「オール森」が、8月に東日本軟式野球北海道大会へ出場(1回戦敗退)

《平成19年》

- 加盟チーム(6) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ トップガン J A渡島森 むさし
- 5月職域(ナイター)大会 4チーム参加 優勝;森町役場 2位;トップガン
- ナイターリーグ 6チーム参加 優勝;トップガン 2位;フィッシャーズ 3位;むさし
- 町内各種大会への審判員の派遣 少年団、中学校等の8大会へ 延べ71名 派遣

《平成20年》

- 加盟チーム(6) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ トップガン J A渡島森 むさし
- 5月職域(ナイター)大会 5チーム参加 優勝;バイレーツ 2位;森町役場
- ナイターリーグ 6チーム参加 優勝;トップガン 2位;フィッシャーズ 3位;むさし
- 町内各種大会への審判員の派遣 少年団、中学校等の5大会へ 延べ36名 派遣

《平成21年》

- 加盟チーム(6) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ トップガン J A渡島森 むさし
- 5月職域(ナイター)大会 5チーム参加 優勝;フィッシャーズ 2位;森町役場
- ナイターリーグ 6チーム参加 優勝;トップガン 2位;フィッシャーズ 3位;バイレーツ
- 町内各種大会の審判員の派遣 少年団、中学校等の4大会へ 延べ20名 派遣

《平成22年》

- 加盟チーム(4) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ J A渡島森
- 5月職域(ナイター)大会 4チーム参加 優勝;フィッシャーズ 2位;森町役場
- ナイターリーグ 4チーム参加 雨天延期等により日程消化できず、順位未確定となった。
- 町内各種大会への審判員の派遣 少年団、中学校等の4大会へ 延べ19名 派遣

《平成23年》

- 加盟チーム(4) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ インベル
- 例年行ってきた5月職域大会(ナイター)は、東日本大震災を考慮し実施を見送ることとした。
- ナイターリーグ 4チーム参加 優勝;インベル 2位;バイレーツ 3位;フィッシャーズ
- 町内各種大会への審判員の派遣 中学校等の3大会へ 延べ18名 派遣

《平成24年》

- 加盟チーム(4) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ インベル
- 5月職域(ナイター)大会 4チーム参加 優勝;森町役場 2位;フィッシャーズ
- ナイターリーグ 4チーム参加 優勝;森町役場 2位;インベル 3位;バイレーツ
- 町内各種大会への審判員の派遣 中学校の2大会へ 延べ10名 派遣

《平成25年》

- 加盟チーム(4) バイレーツ 森町役場 フィッシャーズ インベル
- 5月職域(ナイター)大会 3チーム参加 優勝;森町役場 2位;バイレーツ
- ナイターリーグ 4チーム参加 優勝;バイレーツ 2位;インベル 3位;役場
- 町内各種大会への審判等の派遣 中学校の2大会へ 延べ12名 派遣

《平成26年》

- 加盟チーム(3) バイレーツ 森町役場 インベル
- 5月職域(ナイター)大会 3チーム参加 優勝;森町役場 2位;バイレーツ
- ナイターリーグ 3チーム参加 優勝;インベル 2位;バイレーツ
- 町内各種大会への審判員の派遣 中学校の1大会へ 延べ16名 派遣

《平成27年》

- 加盟チーム(3) バイレーツ 森町役場 インベル
- 5月職域(ナイター)大会 3チーム参加 優勝;森町役場 2位;バイレーツ
- ナイターリーグ 3チーム参加 優勝;インベル 2位;森町役場
- 町内各種大会への審判等の派遣 中学校の1大会へ 延べ16名 派遣



## 現在の協会役員（平成27年4月総会時）

役 職 名	氏 名
会 長	下 山 敬 一
副 会 長	金 谷 孝 己
顧 問	川 村 隆 人
事 務 局 長	佐々木 陽市郎
理 事	田名部 司、梶 谷 雅
審 判 部 員	高 田 憲 輔、小井田 保
体 協 理 事	高 橋 宏 幸
体 協 代 議 員	川 村 勝 幸、寺 澤 英 樹

## 活動写真



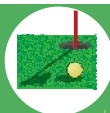
町内各種大会への審判員の派遣協力事業

（写真は桜まつり協賛の恒例行事である「春季中学校ライオンズカップ」での一コマ）

## 今後の目標

「時代の変遷」と言ってしまうとそれまでかもしれないが、協会加盟チームは3チームとなり、野球を”自らプレーし楽しむ人”は確実に減少してきている。人口・若年層の縮小や職場の広域異動なども一因と思われるが、このことは、森町ばかりではなく、全国的な傾向でもある。寂しく厳しい現実ではあるが、このような状況にあっても、町内の3つのスポーツ少年団は頑張りを続けている。かつての”野球小僧”たちが親となり、子どもたちを指導してきている。協会としても連携を図り、地域での野球熱を維持・発展させていくことが重要だと考えている。そのためにも、協会所属審判員の若返り、育成が急務であり（審判がいなければ試合はできない！）重点課題として取り組む必要がある。また、ナイターゲームが事業の中心となっているが、昼間の試合の開催なども含めて、協会総体で野球熱盛り上げのため、知恵を絞っていきたいと考えている。

# 森町パークゴルフ協会



## 協会のあゆみ

設立当時の資料がない為、記憶をたどりながら振り返ると、30年程前現在のようにまだ各市町村でもパークゴルフが普及していない森町で、当時の体育課職員と森町体育指導委員、教対協健康をつくる活動班が中心となり、町民野球場周辺にコースを造成し、整備・管理したのが始まりでした。

その後、三角山スキー場にもコース造成し、施設管理は町民体育館になり、野球場周辺の白樺コースと三角山コースと言う名称の立派なパークゴルフ場が完成しました。

昨今は、各地区に立派な有料のパークゴルフ場が数多く出来、パークゴルフの発展にも寄与されています。

森町パークゴルフ場は当初より無料のパークゴルフ場として開場し、多くの町民又他町村よりも多くのゴルファー達に大変喜ばれています。

その後、森町も競技人口が増え始め森町体育指導委員らが中心となり、森町パークゴルフ愛好会として活動を開始しました。

そして、平成4年に森町体育協会に「森町パークゴルフ協会」として加盟し、町主催のパークゴルフ教室の講師の協力・月例会・各種大会の実施のほか、道民スポーツ大会など数多くの大会に森町の代表として出場し上位の成績を残しております。

また、平成16年3月1日に日本パークゴルフ協会に登録番号第174号の会員に認定をされています。

現在、道内各市町のほか他県にも協会が増え、今年度は518番目迄増えております、当協会は全国でも早い方の認定と自負しています。

## 10年のあゆみ

平成16年の認定に伴い、各地域の各種大会にも参加が可能となり、選手を派遣し良い成績を上げる選手も出て来ました。

平成17年には総会員数が67名でしたが、高齢化により退会する会員数が増え、新規加入会員が減り前年度は48名まで減少しました。今年度は2名の増加で50名で活動しています。

シニア世代は高齢化し、若年層は現職が多く各種大会への参加は平成17年度に比較すると1/3迄落ち込んでいます。新規会員の増加に期待しています。

## 主な大会結果

平成20年渡島体協大会	一般女子団体の部	優勝
平成21年渡島体協大会	一般女子団体の部	第3位
平成23年渡島体協大会	一般女子団体の部	第3位

## 現在の協会役員名簿

会長	山田 哲也	体協理事	山崎 清光
副会長	佐藤 昭二	監事	藤田 吉美
副会長	高山 優子	監事	宮崎 ちづ子
指導・普及部長	秋元 重勝	事務局員	佐々木 勝美
事務局長	内山 寛	事務局員	宮崎 ちづ子

## 活動写真

現在の協会の集合写真 『さあ、頑張ろう!!』



月例大会の様子 『優勝を目指して ナイスショット!』



## 今後の目標

高齢化による退会員の増加を抑止する為に、各町内会大会の回数の増加と口込みによる誘引、ミニコンペ等の誰でも参加しやすい各種大会を増加し、パークゴルフの楽しさを皆さんに理解してもらえる様、来年度に向けて少しずつ運動して行きたい。

冬期間の運動不足解消の為、11月からの青少年会館使用のパークゴルフを広めて、町民の健康維持と会員間の親睦を図って楽しいパークゴルフ協会としたいと思っています。

# さわらパークゴルフ協会



## 沿革

○平成10年度さわらパークゴルフ協会設立

- 1 平成10年10月26日 さわらパークゴルフ協会設立総会
- 2 平成10年10月27日 砂原町体育協会加盟
- 3 平成10年11月25日 国際パークゴルフ協会(現日本パークゴルフ協会)加入(会員番号第332号)
- 4 平成10年12月1日 国際パークゴルフ協会(現日本パークゴルフ協会)道南連合会加入

## 協会のあゆみ

さわらパークゴルフ協会は、平成10年の秋に協会設立準備委員会を発足し、準備期間が1カ月という早業で協会を設立するとともに、日本パークゴルフ協会に入会しました。当協会は、砂原町体育協会の加盟団体では、新しい団体の一つですが、会員相互の交流を深めるとともにパークゴルフの普及に努めておりました。

発足当時は、尾白内パークゴルフ場や鹿部パークゴルフ場を借りて各種大会を開催しておりましたが、平成12年に旧砂原小学校跡地に「あったかさわらパークゴルフ場」がオープンするとともに、大会が増加してきたので、協会の運営体制も毎年強化してきました。

協会発足以来、他町村の大会に積極的に参加しながら、パークゴルフ愛好者との交流及び技術の向上を目指してきましたが、一番重要なことは、競技運営と施設の有効活用でした。特に、あったかさわらパークゴルフ場は、起伏に富んだ戦略性の高いコースであり、初心者から上級者までが楽しむことの出来るコースとなっており、道内でも数少ないナイター設備もありました。このコースで「プレーする人が楽しく、そして再び訪れる。」そのような、施設の活用について様々な角度から研鑽を重ねてきましたが、現在でも管理棟の掲示板、成績掲示板は、当協会のオリジナルとして使用しております。

また、パークゴルフを普及していくために、公認指導員やアドバイザーを養成し、パークゴルフ教室や各種大会等の開催についても積極的に運営協力しております。

当協会の会員は、技術的にも急速な向上が見られ、平成12年度の第32回道民スポーツ渡島パークゴルフ大会で、個人3位、団体3位になるなど各種大会において、好成績を収めるようになり、「道南に、さわらパークゴルフ協会あり！」と注目される協会となってきております。

このように、会員の技術は急速な進歩を遂げてきておりますが、一方、パークゴルフは、老若男女が世代を超えて楽しめる健康スポーツとして全国的に普及されております。当協会でも、運営委員会とマナー普及委員会を設置し、町内でのパークゴルフの普及に努めるとともに、平成14年度からは、会員相互の交流と先駆的な取り組みを行っている地域での研修会を開催し、現在も継続しております。

近年、道内はもとより千葉県等道外からも多くのパークゴルフ愛好者が訪れております。当協会では、町民の皆さんがパークゴルフを通じて、健康で楽しく豊かなまちづくりを目指して頂くことと、森町を訪れる人々との交流をより一層深めていただくことを念願しております。

## 現役員体制（平成27年4月1日現在）

役 職	氏 名
相 談 役	西村 隆、 鈴木 均、 三好 欣一
顧 問	坂本 藤吉、 菊地 康博
会 長	坂本五十三
副 会 長	松瀬 義信、 板澤 宏
理 事	松川 雄平、 阿部 坦、 春木 満昭、 新井 基文 黒田 亮、 新谷 春勝、 西村 秀勝、 神島 真人 三好 恵子
監 事	服部 勝見、 岩井 則子
事 務 局 長	森高 博志
事 務 局 次 長	板澤 宏、 春木 満昭
指 導 普 及 部 長	板澤 宏

## 平成27年度主要事業

- 4月26日 森オーガスターパークゴルフ場オープン大会
- 4月29日 指導者研修会（さわやか・センター・砂原）
- 5月4日 第11回さわら管財交通杯パークゴルフ大会
- 5月17日 5月例会
- 5月31日 あったかさわらパークゴルフ大会（教育委員会主催）
- 6月8日 指導者研修会「森・さわら・鹿部・南茅部」（さわやか・センター・砂原）
- 6月14日 第19回道新函館支社長杯・道南連合会大会
- 6月21日 6月例会
- 6月22日～23日 さわらパークゴルフ協会研修会
- 6月28日 指導員（新規・更新）認定講習会（森町砂原公民館）
- 7月4日 セタペアマッチパークゴルフ大会
- 7月5日 アドバイザー認定講習会（さわやか・センター・砂原）
- 7月12日 第14回新都市砂原病院長杯パークゴルフ大会
- 7月19日 7月例会
- 7月26日 第15回新築建設杯パークゴルフ大会
- 8月9日 第13回太陽杯道南パークゴルフ大会
- 8月23日 8月例会
- 9月6日 平成27年度森町体育協会パークゴルフ大会
- 9月13日 9月例会
- 9月27日 第9回噴火湾カップパークゴルフ大会
- 10月4日 あったかさわら道南パークゴルフ大会（実行委員会主催）
- 10月10日 第15回渡島信用金庫パークゴルフ大会（渡島信用金庫主催）
- 10月18日 10月例会
- 10月25日 平成27年度協会会長杯パークゴルフ大会・納会
- 10月31日 第10回皆でワイワイ楽しいパークの集い
- 11月7日 みんなこいこいパークゴルフ大会

## 活動写真



平成27年度森町体育協会パークゴルフ大会参加者



あったかさわら道南パークゴルフ大会開会式





あったかさわら道南パークゴルフ大会風景



あったかさわら道南パークゴルフ大会風景



# スキー協会



## 協会の沿革

往時の森町のスキー愛好者は、大正の末頃から増えたらしい。

昭和8年2月、青壮年有志が集い、スキークラブの結成が現在のスキー協会の基礎となった。

スキー場も加藤農場上の町有地や波多野農場の畑を利用してもらい、既にスキー大会等の行事も実施されていたようである。

当時は降雪時期も早く、また降雪量も多く11月末にはスキーが出来る状態であったと聞く。

昭和33年には、森町体育協会に加入して森町スキー協会が誕生した。会長には阿部恵三男氏、理事長には手塚義男氏あたり、五十嵐鍾二氏や落合義雄氏が補佐役になり活発な活動が行われた。

その後、落合義雄氏、堀井清雄氏に加え大坂道夫氏らの熱心な取り組みや指導により協会も充実し、文字通り現在の基礎が確立された。

昭和47年2月、冬季オリンピックが札幌で開催されると道内各地でスキー場開発が盛んになり、ゲレンデの整備やリフトの設置されたスキー場が森町近隣にも出来た。

このころになって時代の要請にこたえる協会活動が必要という気運が高まり、会員90人を数える大きな組織となった。

昭和53年11月、古い民家の寄贈を受け、協会員手造りによるスキー小屋を町理事者の理解のもとに設置、以来スキー小屋の愛称で親しまれることになった。同時に夜間照明が出来て長い間の念願がかない、森町のスキー人口が急速に増加することになった。三角山スキー場の愛称も広く知られることになる。

昭和53年の三角山スキー場整備と同時に当時の会長：落合義雄氏や理事長：大坂道夫氏の努力により、ナイタースキー教室をはじめ、小学生スキー教室、検定会などが実施されて協会員相互の技術研修も盛んになった。

昭和55年には、照明の増設、トイレの設置などがされ、昭和60年代まで様々なイベントや活動が取り組まれるようになった。

三角山スキー場の整備に伴い、シーズン中の利用者数は25,000人にもなった。これはスキー用具の改良普及や技術の向上を目指した協会の取組みと同時に、スキー場が市街地に隣接しているという立地条件の良さによることがあげられると考える。まさに、ファミリースキー場という名称に合致しているものであった。

平成元年12月待望の管理棟が完成して町民スキー場・パークゴルフ場として年間を通して利用できるようになった。管理人の常駐や暖房、水道等の施設も充実した。

この年度からジュニアスキー愛好会の指導体制も確立し、小学生の夜間におけるスキー指導を行い、120名の受講者で実施した。

## 10年のあゆみ（平成17年～現在まで）

近年、冬期間のスポーツも多様化し、スキー愛好者の中にも新しいスポーツへと移行する傾向がみられるようになり、更に町民スキー場のように自分の足で登行しなければならない場所でのスキーには関心が少なくなり、近隣のリフト等が完備されたスキー場に気軽に行けるような状況などから、だんだん町民スキー場の利用者も減少をたどっている。

平成17年4月には、旧森町と旧砂原町が新設合併して新森町が発足した。旧砂原町にはスキー協会がないため、特に合併に際しての苦勞はなかった。

現在に至るまでスキー協会が低迷期する中、活動できる協会員で小学生スキー教室やナイタースキー教室、ジュニアスキー愛好会等の行事は実施してきたが、平成21年スキー協会は解散となった。

平成23年12月、新たに立ち上げる協会の趣旨に賛同する会員を召集し、再結成され、少数の協会員ではあるが、小学生のナイタースキー教室（低学年・高学年）の実施し、冬季スポーツフェスティバルのスキーの部：大回転・回転競技を共催、また、町内の小学校スキー授業のボランティア講師等の派遣、近隣の学校教育のスキー授業に携わる教職員向け講習会等の支援等を行っている。

今後は協会の増員を図りながら、事業内容の充実を図っていきたいと思います。



小学生1年生を対象にナイタースキー教室を開催した。サプライズで突然、北斗市出身、冬季オリンピックに出場したアルペンスキーヤーの佐々木明氏が登場した。高速道路を走行時「ナイター照明が見えたので、コソソリ滑ってみたくて来たけど…見つからなかった(´^`)」子供たちにスキーの楽しさと面白さを語ってくれました。

身振り手振りを交えてスキーの楽しさを伝える佐々木氏



# 森町スポーツ少年団

- ・剣道スポーツ少年団
- ・柔道スポーツ少年団
- ・野球スポーツ少年団（森クラブ）
- ・サッカースポーツ少年団
- ・バドミントンスポーツ少年団
- ・バスケットボールスポーツ少年団
- ・尾白内野球スポーツ少年団（尾白内クラブ）
- ・鷲ノ木サッカースポーツ少年団
- ・森・尾白内バレーボールスポーツ少年団
- ・砂原野球スポーツ少年団
- ・砂原サッカースポーツ少年団

## 剣道スポーツ少年団



創立年：昭和40年 代表者名:山口 誠 団員数：30名

## 柔道スポーツ少年団



創立年：昭和41年 代表者名：佐山 寿一 団員数：31名

## 野球スポーツ少年団（森クラブ）



創立年：昭和52年 代表者名：田代 岳雄 団員数：22名

## サッカースポーツ少年団



創立年：昭和52年 代表者名：葛西 俊也 団員数：20名



## バドミントンスポーツ少年団



創立年：昭和52年 代表者名：長崎 一英 団員数：44名

## バスケットボールスポーツ少年団



創立年：昭和52年 代表者名：高山 健太郎 団員数：38名



## 尾白内野球スポーツ少年団（尾白内クラブ）



創立年：昭和52年 代表者名：田名部 司 団員数：15名

## 鷺ノ木サッカースポーツ少年団



創立年：昭和62年 代表者名：金曾 敬介 団員数：16名

## 森・尾白内バレーボールスポーツ少年団



創立年：平成7年 代表者名：藤嶋 磨恵 団員数：20名

## 砂原野球スポーツ少年団



創立年：昭和48年 代表者名：三浦 裕詔 団員数：21名

## 砂原サッカースポーツ少年団



創立年：平成3年 代表者名：井岸 太 団員数：29名



# 森 町 体 育 協 会 規 約

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は森町体育協会（以下「本会」という。）と称する。

(事務局の所在地)

第2条 本会の事務局を森町字清澄町24-2森町民体育館内におく。

(目的)

第3条 本会は、社会教育を振興するため、加盟団体の連携親睦を図り、相協力をしてスポーツの普及と技術の向上に寄与することを目的とする。

(組織)

第4条 本会は、本会の趣旨に賛同し、会員として登録した各種団体をもって組織する。

(加盟)

第5条 本会への加盟は、理事会の出席理事の過半数の議決により決定し、総会へ報告する。

2 前項の加盟は、加盟しようとする団体の規約、事業計画書、予算書及び役員名簿等の関係書類を添えて申請するものとする。

(事業)

第6条 本会は、第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 加盟団体及び関係機関の連絡調整に関する事。
- 2 運営資金の造成に関する事。
- 3 技術向上のための行事に関する事。
- 4 各種大会の開催並びに選手派遣の援助に関する事。
- 5 スポーツの普及に関する事。
- 6 体育功労表彰に関する事。
- 7 その他本会の目的達成に必要な事業。

## 第2章 役員及び代議員

(役員)

第7条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 2名 副会長1名については各協会の持ち回りとする
- (3) 理 事 若干名
- (4) 事 務 局 長 1名
- (5) 事務局次長 1名
- (6) 監 事 2名

(役員の仕事)

第8条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表して会務を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは、これを代行する。

- 3 理事は総会及び理事会の議決事項を執行する。
- 4 事務局長は総会の決する事業を執行するとともに本会の会計を処理する。
- 5 事務局次長は事務局長を補佐する。
- 6 監事は、会計事務を監査する。

(役員の選出)

第9条 役員は、次のとおりとする。

- 1 会長、副会長、事務局長、事務局次長、監事は総会において選出する。
- 2 理事は加盟団体において1名宛選出する。

(役員任期)

第10条 前条第1項の役員任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2 補欠により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

(代議員の選出)

第11条 代議員は加盟団体において2名宛選出する。

### 第3章 顧問

(顧問)

第12条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推薦し会長がこれを委嘱する。

### 第4章 会議

(総会)

第13条 総会は、会長が招集し毎年1回開催する。ただし、会長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

- 2 総会は、代議員の半数以上の出席をもって成立する。ただし、書面をもって委任した者は出席者とみなす。
- 3 総会の議長は、出席代議員の中から選出する。
- 4 総会の議事は、出席代議員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。
- 5 総会で審議する事項は、次のとおりとする。

- (1) 決算及び事業報告に関すること。
- (2) 予算及び事業計画に関すること。
- (3) 役員選任に関すること。
- (4) その他理事会が必要と認められた事項。

(理事会)

第14条 理事会は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 理事会は、理事のほか、会長、副会長、事務局長、事務局次長をもってこれにあたる。
- 3 理事会の議長は、会長とする。
- 4 理事会は、理事半数以上の出席をもって成立する。ただし、書面をもって委任した者は出席者とみなす。
- 5 理事会の議決は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

## 第5章 会計

### (経理)

第15条 本会の経費は、補助金及び負担金並びに寄付金その他の収入をもってこれにあてる。

2 記念事業等のための特別会計を置くことができる。

### (会計年度)

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

### (監査)

第17条 監事は、会計事務を監査し、総会に報告しなければならない。

## 第6章 補則及び規約改正

### (補則)

第18条 この規約に定めるもののほか、この規約の施行に関し必要な事項は、別にさだめる。

### (規約改正)

第19条 この規約は、総会において、3分の2以上の賛成がなければ改正することができない。

## 附 則

### (施行期日)

第1条 この規約は、平成27年6月1日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

### (経過措置)

第2条 この規約の施行の前日までに、合併前の森町体育協会規約（昭和33年2月1日）又は、砂原町体育協会規約（昭和43年4月1日）の規定によりなされた、平成16年度事業、予算、決算、役員等については、なお従前の例による。



# 森町体育協会細則

## 〈目的〉

第1条 森町体育協会規約第18条に基づき、この細則を定めるものとする。

## 〈加盟団体負担金〉

第2条 森町体育協会（以下「本会」という。）加盟団体の負担金は、1団体年 3,000円とし、本会の運営及び事務費にあてるものとする。

## 〈専決処分〉

第3条 緊急やむを得ない理由で、理事会にはかり得ぬ緊急事項は、会長の承認を得て事務局長がこれを執行することができる。

## 〈旅費〉

第4条 本会を代表し、会議等に出席する役職員の旅費の支給額は、次のとおりとする。

「運賃＋日当（2,000円）＋宿泊（10,000円）」

## 〈助言〉

第5条 本会の会議において、森町教育委員会教育長及び森町体育指導委員を、助言者として出席をもとめることができる。

## 附 則

### 〈施行期日〉

第1条 この細則は、平成17年7月9日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

### 〈経過措置〉

第2条 この細則の施行の前日までに、合併前の森町体育協会規約（昭和33年2月1日）又は、砂原町体育協会規約（昭和43年4月1日）の規定によりなされた、平成16年度事業、予算、決算、役員等については、なお従前の例とする。

# 森町体育協会表彰規定

## （目的）

第1条 この規定は、森町における体育の発展、興隆に寄与し、その功勞顕著な者等を表彰し、功績と栄誉を讃え、もって郷土体育の進展に対する意欲の昂揚に資することを目的とする。

## （表彰の対象とする事項）

第2条 森町体育協会長（以下「会長」という。）は、次の各号に該当する個人または、団体に対し表彰する。

- (1) 体育の振興発展に尽力し、功勞顕著なもの。
- (2) 多年にわたり体育の指導実践に尽力し、功勞顕著なもの。
- (3) 毎年次の各種競技会において、特に優秀な成績を収めたもの。
- (4) 前各号の外、体育を通じて他の模範となり、表彰の価値があると認めるもの。

## （表彰の手続き及び方法）

第3条 前条の規定に該当するものについて表彰する場合は、体育協会の理事会において審議、会長が決定し、総会に報告する。

2 理事会の審議は、各加盟団体よりの別記推せん書によって行う。

## （表彰）

第4条 表彰は、表彰状または感謝状にそえて、記念品をおくる。

## （表彰の対象者）

第5条 表彰は、本人または団体の代表者に対して行う。ただし、やむを得ない事由があるときは、代理人に行うことができる。

## （表彰の時期）

第6条 表彰は、定期総会及び会長が適当と認めたとときに行う。

## （表彰者の記録）

第7条 表彰された者の氏名等は、記録台帳に記載し、これを保存する。

## （表彰の重複）

第8条 この規定により、すでに表彰を受けたものがさらに第2条に規定する事項に該当すると認めるときは、再度これを表彰することができる。

## 附 則

- 1 体育協会の表彰に関し、別に定める選考基準によりこれを決めることとし、この規定にない事項については理事会においてこれを決める。
- 2 この規定は、平成17年7月9日から施行する。

# 推 せ ん 書

町体育協会表彰規定に基づき、下記の者（団体）を推せんいたします。

平成 年 月 日

森町体育協会

会長

様

加盟団体代表者

㊟

氏名又は団体名	
団体の場合代表者名	
生 年 月 日	年 月 日生（ 歳）
現 住 所 （団体の場合所在地）	
勤 務 先	
功 績 の 概 要	
推 せ ん 理 由	

## 森町体育協会表彰選考基準

- ①日本体育協会もしくは、その加盟団体が主催又は共催する全国大会に出場したもの。
- ②北海道体育協会もしくは、その加盟団体が主催又は共催する全道大会に優勝又は入賞したもの。
- ③その他全道・地方大会で前号に匹敵する優秀な成績を収めたもの。
- ④選手の指導に専念し、優秀な選手の育成に特に寄与したもの。
- ⑤競技の普及、競技力向上などのため7年以上にわたりスポーツ団体又はグループの指導育成にあたり、その功績顕著なもの。
- ⑥体育協会又は加盟団体の役員として7年以上在籍し、その功績が顕著なもの。
- ⑦競技人として10年以上にわたり活動し、その行動が他の模範となるもの。
- ⑧その他、体育、スポーツの普及発展に貢献した功績が社会的に見て大であるもの。
- ⑨永年にわたり体育協会又はその加盟団体の発展に功績のあったもの。
- ⑩その他体育協会に貢献した功績が社会的に見て大であるもの。
- ⑪町内小中学生で北海道体育協会、北海道スポーツ少年団、北海道中学校加盟、全道大会を統括する競技団体の主催、共催競技大会以上の大会で3位以内又は同等成績と認められるもの。

# 体育関係施設一覧

名 称	住 所	電話番号
森町民体育館(屋内競技全般・トレーニング室)	森町字清澄町24-2	2-1234
森町民テニスコート	森町字清澄町23-2	連絡先は体育館
サン・ビレッジ森(屋内競技全般)	森町字清澄町25-6	2-3249
ベタンク場兼ゲートボール場	森町字清澄町25-6	連絡先は体育館
森小学校プール	森町字清澄町23-2	連絡先は体育館
森町青少年会館(柔道場・屋内土間練習場)	森町字清澄町23-2	連絡先は体育館
青葉ヶ丘グラウンド(野球・ソフト・サッカー等)	森町字清澄町(青葉ヶ丘公園内)	7-1285
森町民野球場	森町字上台町326-1	連絡先は体育館
森町民パークゴルフ場兼スキー場	森町字上台町326-1	連絡先は体育館
森町民パークゴルフ場(尾白内コース)	森町字尾白内929-2	連絡先は体育館
ファミリーヘルスプラザ(町民プール)	森町字砂原西4丁目267-1	8-3823
ふるさと交流館(屋内土間練習場)	森町字砂原1丁目60-1	8-4255
あったかさわらパークゴルフ場	森町字砂原3丁目242	8-5562
総合運動公園(野球・サッカー・運動場)	森町字砂原1丁目22-10	8-3190



森町民体育館



森町民野球場



サン・ビレッジ森



ファミリーヘルスプラザ



ふるさと交流館



さわらパークゴルフ場

## 編集後記

旧森町と砂原町の合併に伴い新生森町体育協会として平成17年4月新たに創立され、ここに10周年を迎えるにあたり記念事業の一環として記念誌を発行することになりました。

この10年間で各単協合併や体協自体の事業の見直し、役員組織の変遷などがあり現在に至っています。保存されている記録資料・写真などを参考に編集し、不十分な個所の掘り直しには苦労しました。この間、各単協各位のご理解とご協力、また梶谷町長様はじめ渡島体育協会連絡協議会長様に至るまで貴重なご寄稿をいただき無事記念誌を完成することができました。

今年度、創立10年という記念すべき年に、各単協より推薦のあった編集委員と体協事務局、そして町体職員と共に数か月に渡り編集にあたってきました。多々、不備な点もごさいましようが、記念の年に免じてお許しいただければ幸いです。

最後に、オニウシ周回マラソン大会、記念講演会など創立10年記念事業に多大なご支援を賜りました関係機関、各団体、各協会のみなさまに深く感謝申し上げ、森町体育協会の一層の発展を祈念して編集後記といたします。

(2016. 1月吉日 文責 木野)



### 記念誌発行実行委員会

編集委員長	木野 皇 (森町体育協会 副会長)
副編集委員長	金丸 孝也 (森町教育委員会 体育課長)
編集事務局長	葛西 十夢 (森町体育協会 事務局長)
編集事務局次長	藤田 早苗 (森町体育協会 事務局次長)
編集委員	小山内 裕介 高瀬 友美 梶谷 和子 熊倉 英高 中田 剛 房田 るみ子 櫻庭 邦行 嶋山 喜式 佐々木 貴裕 房田 茂美 葛西 十夢 吉田 好克 木村 孝 佐々木 陽市郎 内山 寛 松瀬 義信 山上 誠 (各協会より1名)
編集事務局庶務	川口 武正 葛葉 洋平 (森町教育委員会 体育課)

---

創立10周年記念  
森町体育協会記念誌

発行日 平成28年2月  
発行 森町体育協会  
事務局 森町字清澄町24-2 (森町民体育館内)  
電話 (01374)2-1234  
印刷 株式会社 P&Sいわた  
森町字森川町182 電話 (01374)2 2355

---

---





森町体育協会創立10周年記念事業

*th anniversary*